

# 自己評価報告書

平成27年3月31日現在

ベルエポック美容専門学校

平成27年5月31日作成

# 目 次

1 学校の概要等 .....	1	2-4 運営組織 .....	2 0
学校の概要 .....	1	2-5 人事・給与制度 .....	2 2
自己点検・自己評価に対する姿勢 .....	2	2-6 意思決定システム .....	2 3
学校関係者評価委員会の構成と意義 .....	3	2-7 情報システム .....	2 4
教育理念 .....	4	<b>基準3 教育活動 .....</b>	<b>2 5</b>
学校の目標 .....	5	3-8 目標の設定 .....	2 6
学校組織の整備 .....	6	3-9 教育方法・評価等 .....	2 7
本年度の重点課題 .....	1 0	3-10 成績評価・単位認定等 .....	3 0
平成25年度重点目標達成についての自己評価 .....	1 1	3-11 資格・免許取得の指導体制 .....	3 1
<b>基準1 教育理念・目的・育成人材像 .....</b>	<b>1 3</b>	3-12 教員・教員組織 .....	3 2
1-1 理念・目的・育成人材像 .....	1 4	<b>基準4 学修成果 .....</b>	<b>3 4</b>
<b>基準2 学校運営 .....</b>	<b>1 7</b>	4-13 就職率 .....	3 5
2-2 運営方針 .....	1 8	4-14 資格・免許の取得率 .....	3 6
2-3 事業計画 .....	1 9	4-15 卒業生の社会的評価 .....	3 7
		<b>基準5 学生支援 .....</b>	<b>3 8</b>
		5-16 就職等進路 .....	3 9
		5-17 中途退学への対応 .....	4 0
		5-18 学生相談 .....	4 1
		5-19 学生生活 .....	4 3
		5-20 保護者との連携 .....	4 5
		5-21 卒業生・社会人 .....	4 6
		<b>基準6 教育環境 .....</b>	<b>4 8</b>
		6-22 施設・設備等 .....	4 9
		6-23 学外実習、インターンシップ等 .....	5 0

6-24	防災・安全管理 .....	5 1
<b>基準 7</b>	<b>学生の募集と受入れ .....</b>	<b>5 3</b>
7-25	学生募集活動 .....	5 4
7-26	入学選考 .....	5 6
7-27	学納金 .....	5 7
<b>基準 8</b>	<b>財 務 .....</b>	<b>5 8</b>
8-28	財務基盤 .....	5 9
8-29	予算・収支計画 .....	6 1
8-30	監査 .....	6 2
8-31	財務情報の公開 .....	6 3
<b>基準 9</b>	<b>法令等の遵守 .....</b>	<b>6 4</b>
9-32	関係法令、設置基準等の遵守 .....	6 5
9-33	個人情報保護 .....	6 6
9-34	学校評価 .....	6 7
9-35	教育情報の公開 .....	6 9
<b>基準 10</b>	<b>社会貢献・地域貢献 .....</b>	<b>7 0</b>
10-36	社会貢献・地域貢献 .....	7 1
10-37	ボランティア活動 .....	7 3

# 学校の概要

## 1. 学校の設置者

ベルエポック美容専門学校は学校法人東京滋慶学園が設置しています。学校法人東京滋慶学園は、共通の理念のもとに専門学校を全国に運営する滋慶学園グループの構成法人です。

## 2. 開校の目的

ベルエポック美容専門学校は、美容に関する高い専門技術、知識、情報力、感性、創造力、コミュニケーション力をもった「美と健康のコーディネーター」を育成します。その育成を通じて、若者から高齢者まで幅広い世代の人々が心と身体ともに美しく、豊かに生きていける社会づくりに貢献する目的で開講しました。

## 3. 校長名、所在地、連絡先

学校長 前川昭男 所在地 東京都渋谷区神宮前3-26-1 連絡先 03(3423)9090

## 4. 学校の沿革、歴史

- 2000 学校法人東京生命科学学園として開校（厚生労働大臣指定 美容師養成施設 東京都専修学校の認可校）
- 2003 ベルエポック美容専門学校 第2校舎完成
- 2013 学校法人東京滋慶学園に法人変更
- 2014 ヘアメイク科設置  
美容師科 職実践前門課程認定
- 2015 法人住所変更

## 5. その他の諸活動に関する計画（防災計画）

避難訓練 平成27年1月22日実施

## 自己点検・自己評価に対する姿勢

2005年3月に発表された文部科学省「専修学校の振興についての協力者会議」報告の中に、専門学校を持つ職業教育力の特徴は、「専門的な教育と職業観を涵養する教育とが一体的かつ効率的になされている」点にあると記載されています。一人ひとりを目指す職業に向けて専門的にも人間的にも一定のゴールに向けて育成する教育、つまり**職業人教育※は、専門学校においてのみ可能なこと**です。

本校は、一人ひとりが目標を達成できるよう、職業人教育の正しい目標設定と目標に到達させる教育システム※の開発に取り組んできました。

実践的な職業人教育を目的とした自らの教育活動、学校運営について、社会のニーズをふまえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について自ら評価、公表することにより、学校として組織的・継続的な改善を図っていきます。

※ 職業人教育 職業人教育を我々は以下のように定義します。

職業人教育=キャリア教育+専門職業教育

キャリア教育とは、職業人として必要な基礎的な知識・技能・態度の教育

専門職業教育とは、特定の職業に就くための専門的知識、技能、態度の教育

※ **教育システム** 広義の教育システムを「養成目的と教育目標」(養成目的はその学科の社会的ニーズ、教育目標は卒業時到達目標)、「目標達成プロセス」(カリキュラム、学年暦、時間割、シラバス)、「目標達成素材」(教科書、教材、教育技法)、「目標達成支援人材」(担任、専任講師、非常勤講師)、「評価基準」(透明性、公平性、競争性)の5要素で考えています。

## 学校関係者評価委員会の構成と意義

自己点検・自己評価を行なうにあたり、**学校関係者評価委員会**を組織します。本評価委員会を組織することによって、学校の教育活動そのものの質の向上、学校運営の改善・強化を推進していきます。

学校関係者評価委員は学生保護者、卒業生、関係業界、高等学校、地域住民、自治体関係部局などの関係者で構成し、自己点検・自己評価の結果に基づいて行なう学校関係者評価の実施とその結果の公表・説明をおこない、学校関係者からの理解と参画を得て、意見、評価をもらいます。

学校関係者評価委員会を活用し、学校の現状について適切に説明責任を果たすとともに、**地域における学校関係者と学校との連携強化**を推進し、日々教職員の教育力・運営力向上に努めていくことを約束いたします。

# 教育理念

## ① 実学教育

現場で即戦力となる知識・技術(テクニカルスキル)を身につけます。

現場実習や学内サロン実習、産学協同プログラムなど、美容の現場に必要な技術・態度・心構えを身につけます。特に、原宿という美容とファッションの最先端の街にある立地を活かした実習(サロン実習、撮影実習、ファッションコーディネート)は特色といえます。

また、美容業界内で職種ごとに必要な資格を取得する知識や技術も同時に身につけていきます。

## ② 人間教育

いかなる職種でも必要なプロとしての身構え、気構え、心構えを持った職業人を養成します。

専門職として仕事をする上で、サービス力、コミュニケーション力が求められています。いかに技術的に優れていても人間性に欠けていたら信頼される職業人にはなれません。学校生活のなかで、いかに人間力を高める教育ができるかが重要になっています。まず、開学以来『今日も笑顔で挨拶を』を標語として掲げ、あいさつを習慣にする指導にとりくんでいます。さらに学生サロンなど実習で、実際のお客様に対応することで、プロ意識を醸成するとともに、気づきの機会を与え、サービス力、コミュニケーション力を実践の場ですにつけることができる環境をつくっています。

## ③ 国際教育

在学中から、国際教育や海外研修を通じて、より広い視野でモノを捉える国際的な感性を養います。

美容はグローバルなビジネスです。プロとして仕事をする上で、海外のお客様や取引先と接する機会はますます増えていきます。それぞれの分野で先進的な取り組みをしている海外の学校や団体などに赴き、学ぶことができる海外研修を実施しています。『自分を愛することの出来ない人に、他人を愛することは出来ない』をモットーに、日本人としてのアイデンティティを確立したうえで、価値観や文化の違いを尊重できるよう導きます。

# 学校の目標

## 5カ年の目標(2013年度から2017年度までの5年間に、以下の目標を達成します)

1. 中退者を0にする
2. 専門就職率95%以上を毎年継続する(※1)
3. 1年以内の離職者を0にする(※2)

### ※1 専門就職

学科、コースで学んだ専門性を活かすことができる就職先

### ※2 1年以内の離職

学校を卒業し、就職した後、1年以内で離職した者

## 目標の意図

1. 専門学校の中退がきっかけでニート、フリーターになるリスクは高く、その予防は社会的使命といえます。また、中退は学生個人の問題に帰属するととらえず、私たちの教育力、学生の支援力に課題があるととらえ、教育力の向上に取り組んでいます。
2. 学生が学んだ専門性を活かした就職ができるかが専門学校の教育力の価値になると考えています。単なる就職ではなく、専門就職にこだわり、データを公表しています。専門就職率という用語は本校独自のものであり、他の大学、専門学校を含めてデータを公表している学校はまだ少ないと言えます。
3. 就職した学生が1年以内に離職してしまうということは、就職先と本人のやりたいこと、適性が合わなかった可能性が高く、学校のキャリア支援に問題があると言えます。このようなミスマッチを0にすることを目標とし、そのために就職後の卒業生の情報収集とキャリア支援を徹底して行なっています。

## 目標を達成するための方策

1. キャリア教育の推進  
入学前より、職業観とその職業に必要な態度についてより深い理解を促します。また、全ての職員がキャリア教育の観点を持って学生対応できるように研修を行います。
2. FD活動の強化※  
学生一人ひとりが目標をクリアする力を身につけるための授業力、教授力の向上をはかります。講師の研修会の実施、新任講師のOJT研修、コマシラバス、小テストをはじめとする教育システムの質的向上をはかります。
3. 産学協同教育の推進  
現場実習やインターンシップなど業界と学校が積極的に連携し、人材養成と業界とのマッチングをはかります。

※FD (Faculty Development の略) 教育力向上のための実践的とり組み

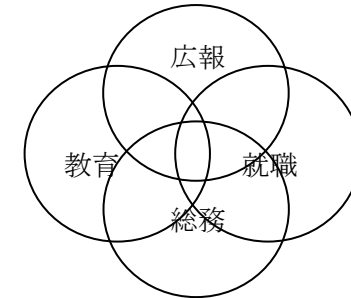


# 学校組織の整備

## ①サッカー型組織

私たちの学校は大きく4部門(教務、企画、就職、総務)で構成しています。それぞれの部門で働く教職員の職務分掌は、固定しているものと、変化するものがあります。

機に応じて役割が変化したり、通常役割を越えて働くことを良しとする、サッカーのような組織を理想としています。



## ②職務分掌

理事会	グループ総長	滋慶学園グループ全体の運営方針、人事の決定を行なう。
	法人理事長	滋慶学園グループの運営方針に基づき、法人の学校方針実現に向けて助言・諸活動を行なう。
	常務理事	滋慶学園グループの運営方針に基づき、グループ校の運営方針の決定を行なう。
	学校長	建学の理念を体現し、教育、指導運営において、周知徹底に寄与する。
	副学校長	学校長を補佐・代行し、学校業務の質と実績を高めるために助言・諸活動を行なう。
	エリア長	常務理事を補佐し、グループ校の運営方針を遂行するとともに、各学校責任者の指導、助言を行なう。
教職員	事務局長	学校責任者として事業計画を作成し、学校運営にかかわる全ての意志決定の責任を負う。
	教務部長	学校運営全ての業務において、事務局長を補佐し、事業計画実現に向け諸活動を行なう。
	学部長・学科長	学部・学科の事業計画の作成、運営にかかわる全ての意志決定の責任を負う。
	FDC	'(Faculty Development Coordinator) 各学校毎に教育力【1. 計画:カリキュラム 2. 運営:授業 3. 評価:試験フィードバック】向上のための教育改革項目について分析し、改革案を作り、改革実施を評価し、修正提言する。
	広報センター長	学校広報目標について、事務局長の監督のもと、各リーダーと連携をとりながら、その実現に責任を負う。
	キャリアセンター長	学校就職目標について、事務局長の監督のもと、各リーダーと連携をとりながら、その実現に責任を負う。
	学生サービスセンター長	学校予算の管理、教職員、及び学生の環境整備について、事務局長の監督のもと、各リーダーと連携をとりながら、その向上のための責任を負う。
	スタッフ職	個別業務の執行について、上長の監督のもと、全般的な意思決定を行なう。事業計画、教育目標達成に向けた業務、プロジェクトや委員会活動など部署横断的な活動に対し積極的にその諸活動を行なう。

# 学校組織の整備

## ③学習する組織

私たちの学校は、学内において教職員が組織的に学習に取り組み、スタッフ一人ひとりが成長できる組織を目指しています。そのために、学習する組織のあり方と、学校運営の方法の確立に取り組んでいます。

### 1. 知の蓄積と伝承を促す組織的学習システムの構築

**学習グループの推奨** 学校の基本単位は教務部と事務部で、それぞれ学部、学科、センターがあります。5名内外のメンバーで構成されるそのチームを学習グループとして位置づけます。また、クロスファンクショナルなチーム(プロジェクトや委員会など)も同様に学習グループとして位置づけ、自問自答と対話と探求による学習を行ないます。

### 2. 自問自答と対話と探求による意思決定システム

**自問自答** 会議・研修は事前準備され、目的、議題、資料などは事前に参加者に配布します。参加者は事前に自分なりの考えと、なぜ自分はそう考えるのかを問い詰めてから参加します。主催者は、あらゆる個人のあらゆる問い、疑問、質問を尊重し、傾聴する場づくりに努めます。大切なのは自答ではなく、自問です。考え、調べ、学ぼうとする個の力を育成するのがねらいです。

**対話(ダイアログ)** 主催者はすべての参加者が役職や立場などに関わりなく平等に議論する場をつくるよう努めなければなりません。主催者と参加者は、対話の結果たどり着いた合意が、単なる妥協や組織内政治の結果ではないか、本質的な問いとなっているか、組織の原則・基本理念と整合しているか、をよく検証する必要があります。

**探求(根拠を問う)の推奨** 問いや主張が対立し、平行線をたどるような場合、相互の主張や考えの背後にある事実やデータについて議論するよう、心がけなければなりません。それぞれが主張する推論の根拠を問い、誰が正しいのか?ではなく、なにがより筋の良い問いであり、仮定であるかを大切にします。

#### 会議のシステム

#### グループ会議

【グループ戦略会議】 月1回

#### 学内会議

【全体会議】 月1回 全教職員

【運営会議】 月1回 エリア長、局長、部長、学部長、センター長

【学部、センター会議】 月1回 学部、センタースタッフ

【キャリア教育会議】 月1回

【TBM (Tool Box Meeting)】 朝礼、終礼、他適宜

## 学校組織の整備

### ④意思決定システム(コミュニケーション一覧)

方法	目的	実施回数	主催者	対象者
常務会	滋慶学園グループ運営の最高決議機関	7回/年	総長	常務理事・指名者
グループ戦略会議	グループ最高議決機関。戦略及びその実行計画を決定する。戦略実施の中間チェックを行なう。参加メンバーが戦略作りの要諦を学ぶ場である。	6回/年	常務理事	エリア長・指名者
運営会議	グループ戦略会議に基づく学校毎の事業計画作成、実施チェックを行なう。学科長クラスの目標達成力及び問題解決力を育成強化する。	1回/月	事務局長	部署リーダー
全体会議	建学の理念、4つの信頼を基に第5期5ヶ年計画と2013年度事業計画の諸方針に従った日常業務の遂行方法を学ぶ。学科部署を越えた共通の課題から、特に重要な問題について認識を共通にする。	1回/月	事務局長	全教職員
部署別会議	各部署の年度目標達成に向けて発生する様々な問題を協議、解決する。	1回/月	部署リーダー	全教職員
プロジェクト	事業計画達成に向けて、部署を横断的に協議する。	適宜	リーダー	プロジェクトメンバー
<b>ミーティング</b>				
O・N・O ※	相互の情報交換や特定の問題、状況、関心事について時間をとって話をする事により、スタッフ、トレーナーへノウハウやスキルを伝え、問題解決、発見につなげる。	適宜	マネージャー・トレーナー	スタッフ/トレーナー
講師 O・N・O	教育システム改革に基づく授業運営、教育方針の徹底をはかり、問題発見の機会とする。	1回/年	事務局長・教務部長	講師
TBM(ツールボックスミーティング)	問題解決の場として適宜実施し、業務の改善をはかる。	適宜	教職員	関係教職員
朝礼・終礼	お互いの問題発見の報告、対策の周知の場とする	毎日	事務局長	全教職員
<b>E・メール</b>				
議題・議事録	議題配信:事前準備を促し、会議への参加意欲を高める。議事録配信:決定事項の内容確認や伝達に活用する	適宜	議長・書記	参加メンバー全員

※ O・N・O ONE・ON・ONE の略 1対1の面談

## 学校組織の整備

### ⑤滋慶教育科学研究所

滋慶教育科学研究所(略称 JESC、以下 JESC という)は、滋慶学園グループ傘下各校の教育の質的向上を目指す一般財団法人です。本校が参加する JESC の主な研究、研修活動には以下のものがあります。

滋慶教育科学学会	滋慶学園グループの各校の教育実務・技法等の研究成果の発表、社会貢献に資するための職員の研鑽と人材育成の場として毎年開催しています。
JESC教育部会 美容教育部会	美容に関連する学科、コースを設置している学校で部会活動を行なっています。活動内容は、情報収集、資格試験データ分析・データ管理、講師、実習、求人の相互活用、模擬試験問題作成などです。
教務マネジメント研修	教務マネジメントに携わるマネージャーを対象に研修を行ない、教務マネジメント力の向上を目指しています。
教職員カウンセラー研修	すべての担任と、直接学生と接点を持つ前教職員が2年間にわたってカウンセリング研修を受けることを義務付けています。カウンセリング研修で得た知識技術を活かし、学生カウンセリングを行なっています。
OJTトレーナー研修	新入職者に対してトレーナーとしての心構え及びトレーナーに求められるスキルを学びます
新入職者研修	学園に入職して仕事を始めるにあたって、学園の理念や原理原則を理解し、自分らしさを活かして仕事を楽しめるよう研修を行なっています。

### ⑥学内研修体制

私たちの学校は、学内において学習に取り組み、スタッフ一人ひとりが成長できる組織を目指しています。そのために、学習する組織のあり方と、学校運営の方法の確立に取り組んでいます。

スタート研修	学園グループ、学校の 5 ヶ年の計画を理解したうえで、単年度の事業計画を落とし込み、各部署、個人の単位まで目的、目標、行動計画を作成します。
教務研修	担任のクラス運営、学生支援力を高めるための研修を行なっています。
広報(入学前教育)研修	広報は入学前教育の考え方をもとに、学生募集や受験生のサポートなど、一人ひとりの適正に合わせた進路指導ができるよう研修しています。

## 26年度の重点課題

### 1. 人間性教育（あいさつ、掃除、態度、コミュニケーション）を徹底する。

人間教育は学園グループの建学の理念でもある。その中でもあいさつ、掃除、態度、コミュニケーションは接客をする美容業の中でも基本ではあるが最も大切な事柄である。お客様が満足する技術や空間を提供するためにはこれらが1つでも欠けてしまうとサービス提供者としては欠陥と映ってしまう。4つの項目については、学生に対し教職員が向き合いながら、学校生活を通じて人材を養成していく。

### 2. 現場の協力を得ながら、在学中により実践的な経験が積める教育環境をつくる。

教室の中では学ぶことのできないリアルな体験が飛躍的な成長を促進すると考えている。言葉で教えられることも大切ではあるが実際に五感で触れた現場の体験は、学生にとってより印象的な出来事として記憶に残り学校生活のモチベーションにも繋がっていく。美容の聖地と言われる『原宿』の立地を活用し、地域の業界と連携しながら現場教育を実践していく。

### 3. 就職担当者と企業との連携を強め、卒業後の離職率低下を目指す。

就職した学生が1年以内に離職してしまうということは様々な要因はあるが、就職先と本人のやりたいこと、適性が合わなかった可能性が高く学校のキャリア支援に問題があるといえる。このようなミスマッチをゼロにすることを目標とし、就職後、卒業生との連携・企業との連携を深め情報収集とキャリア支援を行う。

## 平成26年度重点目標達成についての自己評価

平成26年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p>1. 人間性教育（あいさつ、掃除、態度、コミュニケーション）を徹底する。</p> <p>2. 現場の協力を得ながら、在学中により実践的な経験が積める教育環境をつくる。</p> <p>3. 就職担当者と企業との連携を強め、卒業後の離職率低下を目指す。</p>	<p>重点目標を達成するために、平成26年度の取り組みでは、業界に協力を仰ぎ産学連携を進めてきた。</p> <p>人間性教育については数値化する基準の設定が難しく効果測定ができないが、他者の評判（評価）を聞く限りでは概ね目標達成に向かいつつあると考えている。</p> <p>現場実習（インターンシップ）だけではなく、学校施設を一般開放することで美容現場を学内に再現することができるようになり、実戦的な経験が学内で積めるようになった。</p> <p>就職支援については、卒後の離職者現象を抑制するために学生時代から業界についての見識を深めることができるように、積極的に学内会社・サロン説明会を行っている。</p> <p>また業界との連携強化に努めることにより、協力会社・サロンが増えてきている。</p>	<p>掃除については、クラス、学年によっては不徹底な状態も見られた。</p> <p>担任研修を通じ、掃除のルールや指導を統一し、学校全体で指導できる体勢をつくる。</p> <p>学生の教育成果に対し、他者評価を受ける機会（コンテスト、外部実習）を増やすことと、そのシステムを構築する。</p>

## 27年度の重点課題

### 1. 職業人としての人間性の育成・強化を行う

在学中から、卒業後を見込んだ職業人教育の実施（学内外での業界体験など）を通じて人間性を高めていく。

コミュニケーション力を高める土台として、「話す」・「聴く」・「書く力」を養成する。

現場教育を充実させることで、学生に現場のサロンスタッフによるゼミ教育や企業プロジェクト、企業課題、アシスタントなどを提供する。

また、学生の要望に応じて更なる応用発展ができるプログラムを構築し実施する。

### 2. コンテスト、実習に向けた事前・事後教育の徹底

各種コンテストや実習に向かうまでのプロセス、及び事後の振り返り教育を強化する。

各段階の到達目標を明確にし、知識、技術、身構え、心構えの基礎を養う。

コンテスト、実習の事前事後教育についてきめの細かい計画をおこなう。また、実施要項や実習日誌など、より教育効果を高める教材の開発を行う。

## 基準 1 教育理念・目的・育人人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校法人東京滋慶学園は「職業人教育を通して社会に貢献していく」ことをミッション(使命)にしている。建学の理念①実学教育 ②人間教育 ③国際教育を実践し、4つの信頼（①学生・保護者からの信頼 ②高等学校からの信頼 ③業界からの信頼 ④地域からの信頼）を得られるよう学校運営をしている。</p> <p>建学の理念に基づいて、ベルエポック美容専門学校は、美と健康をテーマに若者から高齢者まで幅広い世代の人々が心と身体ともに健やかに美しく、豊かに生きていける社会づくりに貢献することを目的として学校運営をしている。</p> <p>本校における課題は現在、地域のコミュニティーに積極的に参加をし、地域住民との信頼関係を構築している最中ではあるが、学校設置地域の「原宿」に根差していないこと。</p> <p>また、学生の将来像への到達の課程を全ての学生が理解できるように伝えきれていないため進路変更してしまう学生を出してしまうこと。</p>	<p>建学の理念・4つの信頼に則り、業界の方々との連携をさらに強化していく。</p> <p>これにより業界が求める人材ニーズを把握し、教育に展開をする。</p> <p>学校内の特別講義・講演・実習授業を通して現場の考え方、厳しさ、仕事のやりがいなど学校内の教職員だけではなく、現場のリアルな情報を常に学校内に流れるような環境を学生に提供していく。</p> <p>その取り組みを通して現場の方々との情報交換・連携を深めていく。</p> <p>また、発展応用として学内外の現場実習を充実させ、学生の学習に対するモチベーションをあげるカリキュラムの構築を行う。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実学教育            スペシャリストが求められる時代に即し、業界に直結した専門学校として、即戦力となる知識技術(テクニカルスキル)を教授する。一人ひとりの個性を最大限に活かし、それぞれの業界で力が発揮できるよう構築された『滋慶グループ独自の教育システム』。これを中心に、人に感動を与え、プロ意識を持った『即戦力として仕事ができる人材』を、各業界との連携のもと「各々の業界に直結した専門学校として」養成する。</li> <li>2. 人間教育            開校以来『今日も笑顔で挨拶を』を標語として掲げ、他人への思いやりの気持ちやコミュニケーションを大切にしている。学生は技術・スキルだけではなく、各教育プログラムを通じ、コミュニケーション能力、リーダーシップがとれる対人スキル(ヒューマンスキル)や逞しさを身につける。同時に、自立した社会人・プロの職業人としての身構え・気構え・心構えを養成する。</li> <li>3. 国際教育            より広い視野でモノを捉える国際的な感性を養う。『自分を愛することのできない人に、他人を愛することはできない』をモットーに、日本人としてのアイデンティティを確立したうえで、価値観や文化の違いを尊重できるようにする。</li> </ol>

最終更新日付

2015年5月31日

記載責任者

岩村 勇



## 1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	<input type="checkbox"/> 理念に沿った目的・育成人材像になっているか <input type="checkbox"/> 理念等は文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 理念等において専門分野の特性は明確になっているか <input type="checkbox"/> 理念等に応じた課程(学科)を設置しているか <input type="checkbox"/> 理念等を実現するための具体的な目標・計画・方法を定めているか <input type="checkbox"/> 理念等を学生・保護者・関連業界等に周知しているか <input type="checkbox"/> 理念等の浸透度を確認しているか <input type="checkbox"/> 理念等を社会の要請に的確に対応させるため、適宜見直しを行っているか	5	教育理念・目的・育成人材像は、明文化・文章化されている。  <使用ツール> ・事業計画・教育指導要領・学生便覧  ・学報 ・求人票・学校案内・入学案内	特になし	特になし	
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	<input type="checkbox"/> 課程(学科)毎に、関連業界等が求める知識・技術・技能・人間性等人材要件を明確にしているか <input type="checkbox"/> 教育課程・授業計画(シラバス)等の策定において、関連業界等からの協力を得ているか	4	上記のツールを利用して、研修、会議等を行うことで実現を目指している。  <会議一覧> ・教職員…教職員研修 ・講師…講師会議(年2回実施) ・学生…オリエンテーション・ガイダンス	教材(メイク関連)について、業界の意見を参考に改善を図る。	美容教育部会主導で業界で活躍されている講師の先生に教材を見ていただき、語意見をいただき教材の開発を行う。	

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
1-1-2 続き	<input type="checkbox"/> 専任・兼任(非常勤)にかかわらず、教員採用において、関連業界等から協力を得ているか <input type="checkbox"/> 学内外にかかわらず、実習の実施にあたって、関連業界等からの協力を得ているか <input type="checkbox"/> 教材等の開発において、関連業界等からの協力を得ているか		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者・高等学校…保護者会・高校訪問・総合学習・各種美容イベント</li> <li>・業界…業界懇親会・学習成果発表会</li> <li>・受験生…入学説明会・体験授業・プレレッジ(入学前教育)</li> </ul>			
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 理念等の達成に向け、特色ある教育活動に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 特色ある職業実践教育に取り組んでいるか	5	<p>社会の新たな人材ニーズと見出し、育成人材像として明確化して学科を創設してきた。</p>	「原宿」の地域性を活用した実践教育の強化。	「原宿」の美容サロン、アパレルとより多くのコラボレーションを取り入れた教育を行う。	
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	<input type="checkbox"/> 中期的(3~5年程度)な視点で、学校の将来構想を定めているか <input type="checkbox"/> 学校の将来構想を教職員に周知しているか <input type="checkbox"/> 学校の将来構想を学生・保護者・関連業界等に周知しているか	5	<p>学校に関わる全ての人(教職員、講師、学生等)に周知してもらっている。理念・目的・人材育成像は、明文化されている。</p> <p>&lt;使用ツール&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員…事業計画・教育指導要領</li> <li>・講師…教育指導要領</li> <li>・学生…学生便覧</li> <li>・保護者・高等学校…学報</li> <li>・業界…求人票・学校案内</li> <li>・受験生…入学案内</li> </ul>	特になし	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校運営にあたり、一番大切にしていることが、ミッションと理念である。これを基に、作成している事業計画があるからこそ、健全な学校運営ができています。事業計画で考える中期計画は、学校の未来を表現したものであり、そこで考えられた組織目的、運営方針、実行方針、実行計画が学校の成長につながってきた。</p> <p>また理念、経営者の言葉、学校の考え方や組織文化を、さまざまな形で文書化し、組織内に浸透させるとともに、新たに組織に入ってくる人にも外部にもわかりやすく示していくことによりかなりの力を注いでいる。このことが、学園、学校の活性化につながっていると考えています。</p>	<p>業界の変化に対応するため、育成人材の見直しは、常にかつ組織的に行われなければならない。本校では、その専門職として、ファカルティ・ディベロップメント・コーディネーター（※）を置き、育成人材像から学科の教育内容の見直しを行っている。</p> <p>※ファカルティ・ディベロップメント・コーディネーター（FDC）</p> <p>専門学校における教育の構成要素①養成目的と教育目標（社会ニーズと卒業時到達目標）②目標達成プロセス（カリキュラム・学年歴・時間割・シラバス・コマシラバス）③目標達成素材（教科書・教材・教育技法）④目標達成支援人材（担任・専任教員・講師）⑤評価基準（透明性・公平性・競争性）を学校・学科の独自性・有効性に役立つように改革する核となる人材。</p>

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------

## 基準 2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>諸環境の変化に対応できるように事業計画については毎年長期(5年)、中期(3年)、短期(1年)を展望し、次年度事業計画を作成している。</p> <p>毎年作成しているこの事業計画が学校運営の核となるものである。</p> <p>事業計画は、学校運営会議、法人常務理事会、法人理事会、法人評議員会の決議を受け、承認を得ることになっている。それを受け、毎年 3 月の初旬に5日間かけて、学校の事業計画の研修を行い、全教職員へ周知徹底している。</p> <p>事業計画において、組織図、職務分掌、各種会議の意思決定システム(コミュニケーション一覧)が明確に示されている。</p> <p>運営組織は、事業計画の核をなす組織目的、運営方針、実行方針と実行計画に基づいたものである。単年度の運営も、中期計画の視点にたって行われている。事業計画書の組織図には、学校に関わるすべての人材が明記され、誰もが全員の組織上の位置づけを理解できるようになっている。</p> <p>学校が最も大切にしていることとして、One on One ミーティング、スタンディングミーティング等、即時、適宜にミーティングを行いコミュニケーションに努めている点が挙げられる。また関わる全ての人々が、学園の方向性、学校の方針の実現に向け、同じ方向を向くために、コミュニケーションの重要性を確認している。</p>	<p>組織については毎年変わるが変わったとしても弱まらない組織力をつけることが今後の課題である。</p> <p>そのためには、毎年行っている会議・研修の議事録をファイリングし、誰もが見ることが出来る状態にしておくこと。</p> <p>昨年どんなことが議論され事業計画を推し進めてきたかを理解できるようにしておく。そうすることで中長期的に立てた事業計画が、人が変わったら実行が難しくなるということではなく人が変わったとしても今までの議論や流れが把握できるため組織としての力は弱まらず、毎年毎年事業計画が推し進められると考える。</p>	<p>事業計画の構成</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①組織目的（普遍的に学校が目指す開校、組織運営の目的）</li> <li>②運営方針（中期的に組織として目指していく方針）</li> <li>③実行方針（中期的な組織の運営方針を実現するための単年度の方針）</li> <li>④定量目標（受験者、教育成果（中途退学防止、欠席率、資格取得数、就職率、専門就職率等））</li> <li>⑤定性目標（人材育成や組織あり方等定性的な目標についての単年度目標）</li> <li>⑥実行計画（その方針を実現するための詳細な計画）</li> <li>⑦組織図（単年度）</li> <li>⑧職務分掌</li> <li>⑨部署ごとの計画及びスケジュール</li> <li>⑩附帯事業計画</li> <li>⑪職員の業績評価システム</li> <li>⑫意思決定システム</li> <li>⑬収支予算書（5 ヶ年計画）</li> </ol>

最終更新日付

2015年5月31日

記載責任者

岩村 勇

## 2-2 運営方針

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 運営方針を文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 運営方針は理念等、目標、事業計画を踏まえ定めているか <input type="checkbox"/> 運営方針を教職員等に周知しているか <input type="checkbox"/> 運営方針の組織内の浸透度を確認しているか	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営方針の実現のため、月1回の学校運営会議、学校全体会議及び月2回の学科会議、部署会議を通じて、問題点や課題を明らかにし、速やかに解決策を出し、実行する。</li> </ul>	特になし	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を定めている。</p> <p>明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。それは、各種の研修（教職員・講師）、会議（運営会議・学科会議・課別会議等）で行い、全教員が納得して学校運営に携わる環境作りをしている。このことが、学校・学科の教育成果に繋がっていると考えている。常に市場ニーズに対応した事業計画・運営方針をこれからも作成するように努める。</p>	<p>学校運営をマネジメントシステムの準備（計画）と実行として捉え、マネジメントスキル、知識、そしてリーダーとしての研修を重視している。マネージャーは組織運営者であることを前提としている。</p>

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------

## 2-3 事業計画

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	<input type="checkbox"/> 中期計画（3～5年程度）を定めているか <input type="checkbox"/> 単年度の事業計画を定めているか <input type="checkbox"/> 事業計画に予算、事業目標等を明示しているか <input type="checkbox"/> 事業計画の執行体制、業務分担等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 事業計画の執行・進捗管理状況及び見直しの時期、内容を明確にしているか	5	<p>・学校の組織目的と中期的学校構想のもと、事業計画を作成し、毎年の教職員研修で方針・計画を発表している。</p> <p>・事業計画を教職員が自立的に計画し決定し全員で共有する。その上で職場運営が実行に移されていく。</p> <p>&lt;事業計画の構成&gt;</p> <p>①組織目的            ②運営方針            ③実行方針            ④定量目標            ⑤定性目標            ⑥実行計画            ⑦組織図（単年度）            ⑧職務分掌            ⑨部署ごとの計画及びスケジュール            ⑩附帯事業計画            ⑪職員の業績評価システム            ⑫意思決定システム            ⑬収支予算書</p>	特になし	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を作成している。事業計画を立てること、運営方針を定めることは、常に同時に考え、実践している。</p> <p>明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。</p>	<p>事業計画を教職員が自立的に計画し決定し全員で共有する。その上で職場運営が実行に移されていく。</p> <p>その運営のチェック機能として</p> <p>①学園の常務会議、②学校ごとの戦略会議（運営責任者会議）、③運営会議（学科責任者会議）、④学科会議、部署会議があり、計画遂行の確認をする。問題点を早期に発見し、対策を立て、実行するプロセスを確立している。</p>

最終更新日付

2015年5月31日

記載責任者

岩村 勇

## 2-4 運営組織

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	<input type="checkbox"/> 理事会、評議員会は寄附行為に基づき適切に開催しているか <input type="checkbox"/> 理事会等は必要な審議を行い、適切に議事録を作成しているか <input type="checkbox"/> 寄附行為は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	5	<p>理事会、評議員会を定期的に行い、必要な審議について議決を行っている。</p> <p>また、それぞれにつき議事録が作成され、参加理事の承認を持って結審を行っている。</p> <p>この議事録は各種申請に有効なものとして取り扱っている。</p>	特になし	特になし	
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校運営に必要な事務及び教学組織を整備しているか <input type="checkbox"/> 現状の組織を体系化した組織規程、組織図等を整備しているか <input type="checkbox"/> 各部署の役割分担、組織目標等を規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 会議、委員会等の決定権限、委員構成等を規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 会議、委員会等の議事録（記録）は、開催毎に作成しているか <input type="checkbox"/> 組織運営のための規則・規程等を整備しているか <input type="checkbox"/> 規則・規程等は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	5	<p>運営組織を定めており、事業計画に明記している。組織については3月初旬の研修で共有している。</p> <p>運営組織は、実行計画の最適化の観点から見直されている。その全体像は、事業計画書の組織図に示されている。</p> <p>各会議、委員会を組織し、開催規定・日程をあらかじめ定めている。各会議・委員会の開催については必ず議事録が記録され保管場所と閲覧のルールが定められている。</p> <p>運営のチェックは、各会議で行い、計画遂行の確認をする。問題点を早期に発見し、対策を立て、実行するプロセスを構築している。</p>	特になし	特になし	

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-4-2 続き	□学校の組織運営に携わる事務職員の意欲及び資質の向上への取組みを行っているか					

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
意思決定に関しては、重要事項の優先順位と対応する機関が明確である。毎年事業計画策定という厳しい作業があることで、目標志向性の高い組織運営が行われている。	会議については下記2点を重視している。 ①会議の進行ルール ②議題発信と議事録配布・保管のルール また、会議についての研修を実施している。

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------



## 2-5 人事・給与制度

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	<input type="checkbox"/> 採用基準・採用手続きについて規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 適切な採用広報を行い、必要な人材を確保しているか <input type="checkbox"/> 給与支給等に関する基準・規程を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 昇任・昇給の基準を規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 人事考課制度を規程等で明確化し、適切に運用しているか	5	<p>採用計画、人材育成計画は事業計画で定められている。</p> <p>採用にあたっては、学園本部が中心となり、採用広報や、採用試験を実施している。採用は採用基準の基、厳正に実施している。</p> <p>目標管理制度を基本とし、これと対応して成果主義を取り入れた賃金制度を設けている。</p> <p>賃金の決定は目標管理制度を基準としている。</p>	特になし	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>採用計画と人材育成のための研修は、システムとして確立され、有効に機能している。採用にあたっては、学園本部が中心となり、採用広報や、採用試験を実施している。採用は採用基準の基、厳正に実施している。また、その後の教職員の育成には、もっとも力を入れている。</p> <p>そして、目標管理制度に基づき、成果に応じた人事や賃金決定が行われている。</p>	<p>数字目標を達成する過程の業務や、数字だけでは評価できない業務は情意効果として評価している。</p> <p>目標は常に、健全な学校運営・学科運営を実現できているかという視点で立て、評価も公平に行い、学校・学科の成長と教職員の成長に結びつくようにしている。</p> <p>また、職員の職場に関するアンケートも実施。理念、目標の理解度や、職場満足度、各自の希望などの項目でアンケートを取り、その結果を受けての、職場環境の改善にも着手している。</p>

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------

## 2-6 意思決定システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	<input type="checkbox"/> 教務・財務等の事務処理において、意思決定システムを整備しているか <input type="checkbox"/> 意思決定システムにおいて、意思決定の権限等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 意思決定システムは、規則・規程等で明確にしているか	5	意思決定システムは事業計画において明文化している。意思決定を行う会議の進め方、結果の取り扱いを重視している。また会議毎に参加者は選抜され、その中で各リーダーに権限は委譲されている。	特になし	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を定めている。</p> <p>明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。それは、各種の研修（教職員・講師）、会議（運営会議・学科会議・課別会議等）で行い、全教員が納得して学校運営に携わる環境作りをしている。このことが、学校・学科の教育成果に繋がっていると考えている。常に市場ニーズに対応した事業計画・運営方針をこれからも作成するように努める。</p>	<p>会議は</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法人理事会・評議員会 最高決議機関</li> <li>2. 学校戦略会議 運営方針の起案会議</li> <li>3. 法人学校運営会議 運営方針の問題を発見・対策立て会議</li> <li>4. 運営会議 学校の目標達成に向け、発生する問題解決会議</li> <li>5. 学校全体会議 決定事項の周知</li> <li>6. 学校学科会議・部署会議 部署の問題解決会議</li> <li>7. グループ各委員会会議（広報委員会・総務人事委員会・就職委員会・国家試験対策委員会・学科別教育研究委員会）</li> <li>8. 様々なプロジェクトの会議がある。</li> </ol>

最終更新日付

2015年5月31日

記載責任者

岩村 勇

## 2-7 情報システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	<input type="checkbox"/> 学生に関する情報管理システム、業務処理に関するシステムを構築しているか <input type="checkbox"/> これらシステムを活用し、タイムリーな情報提供、意思決定が行われているか <input type="checkbox"/> 学生指導において、適切に（学生情報管理）システムを活用しているか <input type="checkbox"/> データの更新等を適切に行い、最新の情報を蓄積しているか <input type="checkbox"/> システムのメンテナンス及びセキュリティー管理を適切に行っているか	5	専門学校基幹業務システム（IBM 社製 i 5（アイファイブ）上に構築）により管理。 システムは、①学籍簿管理 ②時間割管理 ③成績・出席管理 ④学費管理 ⑤入学希望者及び入学者管理 ⑥各種証明書管理 ⑦求人企業管理 ⑧就職管理 ⑨卒業生管理 ⑩学校会計システム ⑪人事・給与システム ⑫ファームバンクシステム ⑬研修旅行管理システム ⑭寮管理システム ⑮健康管理システム 等により構築されている。	特になし	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>個別セクションの情報システム化、その結果としての業務の効率化は推進されていると考えている。</p> <p>それは、業務のマニュアル化とシステム化が推進されたことと、法人内のコンピュータ関連会社の協力で、情報の一元化に成果が現れてきたことによる。</p> <p>ここで重要なことは、何のための情報システム化をしているのかという点である。</p> <p>入学前、在籍中、卒後の流れの教育システムの中で、学生一人ひとりの情報を一元管理し、学生の様々な支援（進路決定、就職支援、学費相談等）の際に、その情報を活かし、適切な助言ができることで、専門就職への内定獲得や資格合格に結びつけることである。また、業務の効率化により、教職員が直接学生と接する時間を多くすることが可能になった。</p>	<p>特に、学生の教育・就職・学費入金等、学生に関わる情報処理についてはすべて一元化された運営を行っており、学生情報にブレがないようにシステム構築をしている。そのことが、退学防正、就職支援へとつながっている。</p>

最終更新日付

2015年5月31日

記載責任者

岩村 勇

## 基準 3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>2000年の開校以来、教職員の目標として、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門就職98%以上(学科で取得した知識・技術を活かした仕事に就く)</li> <li>2. 中途退学者0名(入学した学生の夢の実現支援)</li> <li>3. 資格取得100%（専門就職に必要な資格を必ず取得）</li> </ol> <p>を掲げ、その達成のための教育システムの構築に力を入れてきた。この間、3つの教育システムを開発してきた。それぞれに関連しあうシステムなので、ここでまとめてその概要を以下に示すことにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. PCP 教育システム(P…Pre College、C…College、P…Post College)</li> <li>2. MMP プログラム(M…Motivation、M…Mission、P…Professional)</li> </ol> <p>各学科の学生には、学期ごとの到達目標や学年目標を設定して、修業年限の中で確実に到達できる方法論を明示している。教科科目ごとにも毎回の授業の到達目標を授業前に明示し、学期末の定期試験時に到達すべき目標に段階的に導く手法をとっている。</p> <p>よって、修業年限内に実施されるすべての講義科目の到達目標の集大成が教育目標のゴールであり、業界の人材ニーズと合致する。</p>	<p>専門就職100%の実現のために、学生個々のニーズを的確にとらえる。</p> <p>地域に根差した教育活動として、地元サロンとの産学協同プログラムの充実化を図ることにより、業界との連携強化を行う。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. PCP 教育システム (P…Pre College、C…College、P…Post College) (※)              入学前から卒業後までの一貫した人材育成のためのシステム。入学前に自分の夢や将来の仕事を見だし（自己発見）、在学中にその夢の実現に向けて変身していき（自己変革）、そして卒業後あこがれの職場でプロとしての自分を完成させていく（自己実現）。そうしたフローでのプロセス全体を総じて呼ぶ。</li> <li>2. MMP プログラム (M…Motivation、M…Mission、P…Professional)              自立したプロの職業人として業界で活躍するために必要な能力である「モチベーション(動機づけ)」「ミッション(使命感)」「プロフェッショナル(職業的な知恵)」という3つの能力を修得する教育プログラムで構成されている。</li> </ol>

最終更新日付

2015年5月31日

記載責任者

岩村 勇

## 3-8 目標の設定

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 職業教育に関する方針を定めているか	5	教職員指導要領に教育課程の編成・実施方針を明文化し示している。	特になし	特になし	
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	<input type="checkbox"/> 学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか <input type="checkbox"/> 教育到達レベルは、理念等に適合しているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか <input type="checkbox"/> 資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか	5	学校の教育理念に基づき、学科（コース）の課題を明確にして課題キーワードを抽出。それによって養成目的や教育目標の見直しを毎年実施している。	特になし	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育指導要領に基づき理念に沿った教育を行っている。また教育到達レベルも明確に明文化されている。	学校独自の教育システム PCP 教育プログラム MMP 教育プログラム

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------

## 3-9 教育方法・評価等

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	<input type="checkbox"/> 教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか <input type="checkbox"/> 授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の開設において、必修科目、選択科目を適切に配分しているか <input type="checkbox"/> 修了に係る授業時数、単位数を明示しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で、授業科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか	5	<p>教育課程編成委員会を組織し、学則に照らし合わせたカリキュラムの履行と実施に工夫を取り入れている。</p> <p>委員会開催時には必ず議事録を作成し記録として残している。また、委員会開催については公開をしている。</p> <p>時代のニーズに応じた人材育成に即時に応えられる体制を確立している。</p> <p>また、卒後の離職といった社会問題についてもキャリア教育の視点を取り入れることで学生が卒業後、長期間安定して働くことができる素地を形成するよう取り組んでいる。</p>	特になし	特になし	

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-9-1 続き	<input type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等工夫しているか <input type="checkbox"/> 単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか <input type="checkbox"/> 授業科目について、授業計画（シラバス・コマシラバス）を作成しているか <input type="checkbox"/> 教育課程は定期的に見直し改定を行っているか					
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか <input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか	5	教育課程編成委員会では外部委員として、業界関係者・職能団体関係者を招聘し、多角的視点で評価・改善提案を行っている。	特になし	特になし	
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	<input type="checkbox"/> キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか <input type="checkbox"/> キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか	5	キャリアロードマップを用いて、教員・学生共にキャリア教育の理解を深めたうえで教育にあたっている。	特になし	特になし	

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-9-3 続き	□キャリア教育の効果について卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか					
3-9-4 授業評価を実施しているか	□授業評価を実施する体制を整備しているか □学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか □授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか □教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか	5	1年間に2回授業アンケートを行っている。 ファカルティディベロップメントコーディネーター（FDC）が中心となり教員に授業評価結果のフィードバックを行い、教員の教授力向上を図っている。	特になし	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
養成目的・教育目標を立てたうえで、卒後の業界の求める人材育成を実施している。単なる「職業教育」から「職業人教育」へと教授内容・方法をシフトさせており、その根底になっているものとしてキャリア教育の観点を取り入れている。	養成目的 教育目標 キャリアロードマップ

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------



## 3-10 成績評価・単位認定等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか <input type="checkbox"/> 成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか	5	成績評価と単位認定の基準は、学則施行細則はもとより、「教育指導要領」及び「学生便覧」にしっかりと明記し、職員や講師、学生に周知徹底している。また、それらに基づき学生指導・支援にあたっている。	特になし	特になし	
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	<input type="checkbox"/> 在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか	4.7	学内コンテストにおいては業界の方に評価を頂いている。また、平成26年度から学外コンテストにも参加している。	学外コンテストの参加練習を含めた学年暦の改善。	コンテストに参加しやすいスケジュール作成を行う。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育成果を図るための評価基準は明文化されている。また、職員のみならず学生はもちろんのこと、保護者会を通じて保護者にも周知している。</p> <p>国家試験合格のための知識・技術の向上を中心とした教育プログラムとなっている。このため、外部コンテストで求められる技術や特に創造力を育む教育プログラムの導入を検討する必要があると感じている。</p>	<p>学生便覧 学則施工細則</p>

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------

## 3-11 資格・免許取得の指導体制

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	<input type="checkbox"/> 取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか	5	学科ごとに目標としている資格に対して、100%合格を目標に独自に対策を立て、実施している。	常に100%合格とはなっていない。	検定に向けたカリキュラムを見直し、講師とのコミュニケーションを強化する。	
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	<input type="checkbox"/> 資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか	5	在学中不合格であった場合は、卒業後も合格まで指導していく体制をとっている。	卒業生の就業状況に合わせて対策授業を実施すること。	同窓会活動を兼ねて、対策授業を実施する。事前アンケートを実施し、希望に添った日程で実施する。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>美容師免許取得は学科としての必須命題である。このため法律に則った教育の施行を遵守し教育にあたっている。</p> <p>平成 26 年度は全員が国家試験に合格をした。今後万が一不合格者が出た場合は卒業後も無料で国家試験対策講座を実施している。</p> <p>※美容師国家試験通学課程新卒者合格率 100% (92 名/92 名)</p> <p>平成 27 年 3 月実施</p>	<p>学生便覧</p> <p>学則施行細則</p> <p>卒後支援プログラム</p>

最終更新日付	2015 年 5 月 31 日	記載責任者	岩村 勇
--------	-----------------	-------	------

## 3-12 教員・教員組織

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	<input type="checkbox"/> 授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか <input type="checkbox"/> 教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか <input type="checkbox"/> 教員採用等人材確保において、関連業界等との連携しているか <input type="checkbox"/> 教員の採用計画・配置計画を定めているか <input type="checkbox"/> 専任・兼任（非常勤）、年齢構成、男女比など教員構成を明示しているか <input type="checkbox"/> 教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか	5	<p>法律に則った教員配置を履行している。</p> <p>講師就任時には資格賞の写しの提出を必須としている。</p> <p>また、授業を初めて行う講師については、講師契約前に技術を確認するなど、適切人材の配置に努めている。</p>	特になし	特になし	

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	<input type="checkbox"/> 教員の専門性、教授力を把握・評価しているか <input type="checkbox"/> 教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 関連業界等との連携による教員の研修・研究に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか	5	<p>授業初任者は採用前に技術力を確認している。</p> <p>また、定期的に科目担当者の会議を開き教授ポイントの確認を行っている。</p>	特になし	特になし	
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 分野毎に必要な教員体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか <input type="checkbox"/> 授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか <input type="checkbox"/> 専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか	5	<p>教員の担当科目については学則に基づき編成をしている。</p> <p>1つの科目を複数の教員が担当することがあるので、科目群や科目ごとの定例会議を開催している。</p> <p>専任・兼任教員の連携では専任教員がリーダーシップを執り教育体制を確立している。</p>	特になし	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教員の体制については特に問題はないが、多様化する学生への学習支援が求められている。特に学習習慣がない・低学力などの学生に対する教育支援が課題となっている。</p>	<p>講師会議 科目連絡会 国家試験対策教員勉強会</p>

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------

## 基準 4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学修成果は、目標達成の努力の結果である。基準3の記載と重複するが、本校は、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門就職100%</li> <li>2. 中途退学者 0名</li> <li>3. 資格取得100%</li> </ol> <p>を教育成果の目標に学校運営を行っている。そのために開発した4つの教育システムの成果として、就職 退学率 資格取得 の項目ごとに記載する。</p> <p>(1)就職 開校以来、専門就職と内定100%に向けた就職支援・指導の徹底を教職員一丸となって取り組んでいる。 就職支援・指導のため、開校以来教務部だけではなく、キャリアセンターを設け、求人表の獲得や、学生の内定を勝ち取るためのシステムを構築している。 また、教務は就職委員会を、卒業学年担任中心に立ち上げ、学生の就職支援・指導体制を強化している。</p> <p>(2)退学率 開校当初10%を超えていた退学率も、14年が経ち、3%台まで低減している。 その要因としては、何よりも明確な低減化数値目標を毎年掲げて、厳しく取り組んできたことが挙げられる。</p> <p>(3)資格取得 年度当初に資格取得目標を立てる。開校以来各学科のカリキュラムは専門資格取得のための、受験対策を含めて立てている。</p> <p>その他、卒業生の活躍や在学生の研究発表などにおいて、業界から高い評価をもらっている。</p>	<p>課題は専門就職100%、中途退学0、各種資格取得の合格率100%である。</p> <p>授業・学園生活を通じて学生の目的意識を維持する仕組みを構築することで、専門就職100%を目指す。</p> <p>中途退学は毎年低減されているが、学園・学校の目標である0ではない。学生一人ひとりに対して実学教育もさることながら人間教育(キャリア教育)がポイントとなる。人間教育(キャリア教育)を推進するためには教職員の一人ひとりのスキルを上げる研修を行うことが必要であり行っていく。また各学科、学生が抱える問題に対してチームで取り組む必要がある。</p> <p>資格取得100%については、講師の日々の教授力の向上が必須となる。ファカルティデベロップメントコーディネーター(FDC)を中心に講師勉強会・授業アンケートを基にした講師へのフィードバックを行うことで日々の教授力向上に努めている。</p> <p>また学生のモチベーション管理の必要については各学科担任を中心に動機付け教育を行っておりモチベーションに関しても留意しながら学校生活を見守っている。</p>	<p>(1)就職 ・就職に関わる本校の目標は下記の項目</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 求人票数 美容サロンなど</li> <li>② 就職内定数(率) 内定数/就職希望者</li> <li>③ 専門就職数(率) 美容分野の就職</li> <li>④ 就職者数(率) 内定者数/卒業生</li> </ol> <p>(2)退学率 具体的な施策の主要なものとして、以下がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① カリキュラムの工夫[MMPプログラム]</li> <li>② 学年歴の工夫(初期教育、休暇明け教育、進級次教育の際の工夫⇒モチベーション向上プログラムの提供)</li> <li>③ 担任研修(担任マニュアル)</li> <li>④ 滋慶トータルサポートセンター(JTSC)(※)</li> <li>⑤ 学生カウンセリングの担任、教務部長、カウンセラーのチームアプローチのシステム化</li> </ol> <p>※ 学生の抱える問題を相談できるセンターにカウンセラーが駐在し、学生生活における不安や悩みを相談できるようにしている。</p>

最終更新日付

2015年5月31日

記載責任者

岩村 勇

## 4-13 就職率

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 就職率に関する目標設定はあるか <input type="checkbox"/> 学生の就職活動を把握しているか <input type="checkbox"/> 専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 関連する企業等と共催で「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか <input type="checkbox"/> 就職率等のデータについて適切に管理しているか	4.5	<p>2000年の開校以来、就職希望者の内定100%を目標にしている。</p> <p>毎月15日と月末に、就職内定状況を学科ごとに作成し、明確な把握を心がけている。</p> <p>また、卒業年次の担任とキャリアセンターで集まり、月に1度「就職委員会」を実施して情報共有をしている。年度当初の目標数字を達成するための活動でもある。</p>	<p>就職希望者率が80%台である。</p> <p>3月末日までの未内定者7名。</p>	<p>担任・キャリアセンター・業界が協力し合い、学生のモチベーションなどが下がらないように、年間を通じて「就職授業」などを展開していく。</p> <p>未内定者は継続支援し100%就職を目指す。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職率に関しては開校以来100%を維持してきたが、平成26年度に初めて未内定者を出した。</p> <p>就職者率と専門就職率は共に90%を超える数値で、高い水準を満たしている。</p> <p>これらはキャリアセンターと学科が、年度当初の目標設定から学生の内定獲得まで、常に連携しながら活動をしている成果である。</p> <p>未内定者については、受験先が決まらないという理由が多く、今後のキャリア支援のプログラムを見直し、強化していく必要がある。</p>	<p>キャリアセンター…就職に関する相談室を「キャリアセンター」という名称で設置している。キャリアセンターの目的は</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 入学希望者に卒業後の就職イメージを持ってもらう：入学希望者には、具体的な仕事の内容を理解してもらい、安心して学校を選んでもらえるようにする。</li> <li>② 在校生に対しての就職支援：在校生には面接時におけるスキルアップ指導や、筆記試験対策の実施等をサポートし、プロ意識を養い育てていく。</li> <li>② 窓生（卒業生）のキャリアアップ支援：卒業後の同窓生には就職した後にさらなるキャリアアップを考え、マネージメントやコーチング などの実務レベルのスキルアップや、再就職支援を実施している。</li> </ol>

最終更新日付

2015年5月14日

記載責任者

岩村 勇

## 4-14 資格・免許の取得率

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 資格・免許取得率に関する目標設定はあるか <input type="checkbox"/> 特別講座、セミナーの開講等授業を補完する学習支援の取組はあるか <input type="checkbox"/> 合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか <input type="checkbox"/> 指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか	4	資格取得者数及びその推移の把握に関しては、各学科で ・自校の結果及び推移の把握、データ化 ・他校の結果及び全国の合格率の推移のデータ化を行っている。 また資格合格率100%に向けて対策講座を適宜行っている。	毎年合格率が100%になるシステム作り。 通信課程の国家試験対策の出席率。	学生の技術・筆記レベルの正確な把握とそれに対して少人数の特別支援対策講座を計画的に行うこと。また年間のレベルチェックでの到達度の確認と期間ごと合格ラインを明確にすること。 国家試験対策の開催日程、方法を改善する。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
職業人教育を担う教育機関としては就労につながる資格に関しては学生全員に取得していただくことを目標にしているが、学生全員の全ての資格試験合格には至っていない。現在は各学科で資格取得のために、対策授業の実施など対策を立て実行している。	資格特別対策講座を、各資格で必ず取り入れている。美容師国家資格では、10年以上全国平均を上回る結果を残している。 平成27年3月美容師国家試験合格率、100%を実現。

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------

## 4-15 卒業生の社会的評価

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	<input type="checkbox"/> 卒業生の就職先の企業・施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか <input type="checkbox"/> 卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか	4	<p>SNSや来校した卒業生に近況確認などを直接確認している。</p> <p>また、多くの企業を訪問し、卒業生の状況確認を実施している。</p> <p>卒業生が就職しているサロン訪問などキャリアセンターを中心に行っている。</p> <p>その他、離職の状況についても調査を行っている。</p>	<p>卒業後のコンテストの受賞状況の把握全てはできていない。</p> <p>業界とのつながりを更に深めていくこと。</p>	<p>卒業生の卒後の就業状況、住所などの情報を得ていく。</p> <p>サロン訪問を行い、採用担当者さまに卒業生の近況をヒアリングする。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>卒業生の社会での活躍は年々大きくなってきている。</p> <p>有名サロンへの就職のみならず、芸能人のヘアメイク、オリンピックにおけるメイク担当などグローバルな活躍をする卒業生も増えてきている。卒業生の活躍は求人票の多さにも現れている。</p> <p>在校生は、実習活動や卒業研究を通して社会で活躍している。今後も在校生の活躍の場を広げていく取り組みをし、学園の考えである「職業人教育を通じて社会に貢献する」人材育成をしていく。</p>	<p>卒業生の海外での活躍や、世界的なイベントでのヘアメイク担当など、活躍はグローバル化している。</p> <p>例) 美容師科1期生：佐藤 千栄 (TONI&amp;GUY、ロンドン アーティスト)</p> <p>2014-2015 British Hairdressing Award AvantGarde 優勝</p> <p>2014 AIPP 国際大会アバンギャルド部門 優勝</p>

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------



## 基準 5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生が目標を達成できるように、物心両面の環境を整備していくことが学生支援である。そこには学生への暖かい心がなくてはならない。本校としては、学生が抱える小さな困難にも配慮した支援を心がけている。</p> <p>しかし支援はあくまで支援である。例えば健康の維持は、学業目標達成には欠かせない事項であり、本校でも健康診断にとどまらず多くの支援体制を築き上げている。とはいえ学生本人が健康管理についての自覚を持つことなしには支援は、効果がない。</p> <p>学生支援は、このような視点に立ち、まず学生の自立的行動を促しながら、行っている。</p> <p>学生支援は、①就職②学費③学生生活④健康などの分野で行っている。学生支援の体制として、これらの分野それぞれに対応できる担当部署や専門担当者を置いている。</p> <p>健康管理と関連するが、滋慶学園グループは関連会社が運営する学生寮を多く有している。地方出身者への便宜と安心のためであり、寮の体制とサービスも学生支援の一つとして取り組んでいる。</p>	<p>将来各業界で活躍できる支援を指導とのバランスを考えながら行っていく。特に学園の理念でもある人間教育（キャリア教育）に関しては、今まで以上に力を入れて行っていく。</p> <p>卒業時には自立した職業人になるために目標の設定を細かくしていき成功体験を多く積ませることにより、教育目標を達成させる。</p>	<p>①就職②学費③学生生活④健康などの分野それぞれに対応できる担当部署や専門担当者は下記になる。</p> <p>① 就職については、キャリアセンターを設置、担任と連絡を取りながら就職の相談などの支援に当たっている。</p> <p>② 学費については、相談窓口を学生サービスセンターとし、本校が提供できる学費面でのサービスについて詳しい知識とアドバイスができるフィナンシャルアドバイザーを配置して、対応している。</p> <p>③ 学生生活面の相談は、滋慶トータルサポートセンター（JTSC）で行っている。相談員は、滋慶教育科学研究所が主催する独自のカウンセラー資格（JESC カウンセラー資格）を取得したカウンセラーである。</p> <p>④ 健康管理については、学園グループの診療所である慶生会クリニックが担当し、相談や健康診断および歯科、内科の治療を行っている。また一人暮らしで、栄養や生活規律などに乱れがないよう、指導や啓発活動を行っている。</p>

最終更新日付

2015年5月31日

記載責任者

岩村 勇

## 5-16 就職等進路

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 就職など進路支援のための組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生の就職活動の状況を学内で共有しているか <input type="checkbox"/> 関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか <input type="checkbox"/> 就職説明会等を開催しているか <input type="checkbox"/> 履歴書の書き方、面接の受け方など具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか <input type="checkbox"/> 就職に関する個別の相談に適切に応じているか	5	<p>本校は、就職に関する相談室を「キャリアセンター」という名称で設置している。キャリアセンターは、本校に入学を希望する方から、在校生、同窓生まで幅広くキャリアアップ支援（就職支援、生涯学習支援）をしている。</p> <p>学内の説明会に関して人事担当者や卒業生に來校していただき、業界情報を提供している。</p> <p>就職活動に関しては各科で就職講座をカリキュラムに組み込んでおり、そこで就職の具体的な活動に関する指導を行うと同時に、キャリアセンターにおいても随時相談に乗れる体制を整えている。</p>	教務（2年生担任）とキャリアセンターのルール統一、指導の連携。	キャリアセンター主催の定例ミーティング、日々のコミュニケーションで学生支援をしていく。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
開校以来、就職希望者内定者98～100%他の実績で表されているように、就職指導体制は高いレベルであると思われる。	<p>【ｼﾞｮﾌﾞナビの活用】美容室の求人情報がキャリアセンターで閲覧することができる。各校で同じ分野の求人共有ことができ、学生が多くの情報を得ることができる。また求人を無駄にすることなく活用することができる。</p> <p>【学内企業説明会の実施】企業の採用時期に合わせて開催し、学校に採用の担当者をお呼びし、面接試験などを行ってもらう。</p>

最終更新日付

2015年5月31日

記載責任者

岩村 勇

## 5-17 中途退学への対応

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか	<input type="checkbox"/> 中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか <input type="checkbox"/> 指導経過記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか <input type="checkbox"/> 退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか	4	<p>年度の終わりには、進級・卒業判定会議資料として進級者名簿・数と退学者名簿・数、退学時期、退学問題分類・詳細、その結果を受けた学科総括と次年度対策案を書類として作成している。また年度中期と年度末に学校長、事務局長、教務部長、学科長参加の下、進級・卒業のための判定を行う。</p> <p>担任を中心に心理面、学習面での支援、または補習など組んでいる。</p>	年々低減は図られているが、目標である中途退学者0名までには至っていない。	<p>ひとりひとりに合わせた対応を愚直に行っていく。</p> <p>担任研修を通じ指導力を強化し、学生に合わせた対応ができるようにする。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>専門学校の退学者率の水準が一般に10%と言われている中で、本校の退学率は3%台となっており、退学率は一般の水準より低いと考えている。</p> <p>今後は、退学率0%に向けた取り組みの一環として、まずは平成27年度以降は退学率が常に3%を下回ることを目標にする。</p>	<p>担任、学科長、事務局長の連携、また SSC（カウンセラー）との連携によって、一人一人の学生の個性に合わせた対応をしている。また、学習ポートフォリオの活用で自己肯定感を高めることにも注力している。</p>

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------

## 5-18 学生相談

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか <input type="checkbox"/> 学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか <input type="checkbox"/> 相談記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 関連医療機関等との連携はあるか <input type="checkbox"/> 卒業生からの相談について、適切に対応しているか	5	<p>本校の学生相談室は、「滋慶トータルサポートセンター(以下 JTSC)」という名称で学生生活全般における不安や悩みの相談に乗っている。</p> <p>JTSC では専属のカウンセラーが基本学生の対応をしている。</p> <p>卒業生の相談としては生涯教育の視点から就職・今後のキャリアの相談まで各学科教職員が随時対応している。</p>	特になし	特になし	
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 留学生に関する指導記録を適切に保存しているか	4.3	<p>国際センタースタッフを中心に各学校留学生の窓口の担当者がいる。ただ、実績としては少ない。</p>	<p>留学生を受け入れる体制はあるが、ビザの問題もあり、日本国内就業については専門就職支援までは行えていない。</p>	<p>国際センターと連携し留学生の受け入れをできるようにしていく。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>JTSC を設置し、①精神面②学費③健康面などの相談をいつでも受け入れる体制は既に整備され、しかも有効的に機能していると考えている。</p> <p>全教職員が「JESCカウンセラー資格」を取得し、カウンセリングマインドを持ち相談に乗っている体制を築き上げている。</p> <p>学生相談体制はかなり高いレベルであり、それが、近年の退学率減少に結びついていると考えている。</p> <p>留学生の受け入れ体制は強化していく。</p>	<p>教職員全員が、カウンセリングマインドを持ち学生支援を行えるよう研修会&amp;カウンセリング資格制度を実施。特に、カウンセリング研修では学園内組織(滋慶科学教育研究所)が主催する「JESCカウンセラー資格」を全員に受講させ試験を実施することでカウンセリング技術の均一化を図る。</p> <p>心理学／カウンセリング基礎知識習得を行うことで、学生相談室との連携が非常にスムーズにしている。</p>

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------

## 5-19 学生生活

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校独自の奨学金制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 大規模災害発生時及び家計急変時等に対応する支援制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 学費の減免、分割納付制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 公的支援制度も含めた経済的支援制度に関する相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 全ての経済的支援制度の利用について学生・保護者に十分情報提供しているか <input type="checkbox"/> 全ての経済的支援制度の利用について実績を把握しているか	5	<p>学校が窓口となる奨学金として日本学生支援機構及び東京都育英資金奨学金がある。高等学校で手続きをする予約奨学金の利用者は年々増加しており、在学採用より多くなっている。これ以外に各都道府県にて実施しているものや、各団体が実施しているものがある。奨学金に関する情報は学生サービスセンターが整備・管理している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨学金制度や、学費分納制度等の経済的支援をする制度</li> <li>・緊急時の奨学金貸与制度</li> <li>・学生への周知状況を示す書類</li> <li>・奨学金制度の案内</li> <li>・奨学金制度利用実績を示すデータ</li> <li>・学費分納制度等の案内</li> </ul>	特になし	特になし	
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校保健計画を定めているか <input type="checkbox"/> 学校医を選任しているか <input type="checkbox"/> 保健室を整備し専門職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 定期健康診断を実施して記録を保存しているか <input type="checkbox"/> 有所見者の再健診について適切に対応しているか	4	<p>学校健康法に基づき行われている定期の健康診断は4・5月中にすべての学生が受診することになっている。教職員は4～6月中に受診することになっている。</p> <p>「慶生会クリニック」や「滋慶トータルサポートセンター」が学生の体と精神面の健康管理をしており、学生の健康管理を担う組織体制は確立されている。</p>	近隣の医療機関との連携はできていない。	近隣の病院と連携することを推し進めていく。	

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-19-2 続き	<input type="checkbox"/> 健康に関する啓発及び教育を行っているか <input type="checkbox"/> 心身の健康相談に対応する専門職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 近隣の医療機関との連携はあるか		健康診断の結果を基に行っている。 また毎週専門のカウンセラーがカウンセリングを行っている。			
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 遠隔地から就学する学生のための寮を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生寮の管理体制、委託業務、生活指導体制等は明確になっているか <input type="checkbox"/> 学生寮の数、利用人員、充足状況は、明確になっているか	5	学生寮の運営は学園本部の「かさい学生寮本部」が行っている。「かさい学生寮本部」では、寮以外でもアパートや不動産屋の紹介をし、ひとり暮らしのサポートを全般的に行っている。	特になし	特になし	
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> クラブ活動等の団体の活動状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 大会への引率、補助金の交付等具体的な支援を行っているか <input type="checkbox"/> 大会成績など実績を把握しているか	4.3	ダンスサークル、フットサルサークルがあり、学生主体で運営を行っている。	運動場が備わっていないため、スポーツ系の活動の体制を整えられていない。	近隣のスポーツ施設を借りるなど工夫をしていく。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
クラブ活動に関しては学生満足度を高めるためにも設備、システムの充実化を図る。現在、クラブは2団体しかなく、今後、追加も検討する。	ダンスサークル フットサルサークル

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------

## 5-20 保護者との連携

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	<input type="checkbox"/> 保護者会の開催等、学校の教育活動に関する情報提供を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 個人面談等の機会を保護者に提供し、面談記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 学力不足、心理面等の問題解決にあたって、保護者と適切に連携しているか <input type="checkbox"/> 緊急時の連絡体制を確保しているか	4	<p>学生の夢を叶えるためには、学校のみならず家庭の協力が大変重要と考えている。学園の基本方針に「保護者からの信頼」を掲げ、学園全体でその信頼獲得にむけ、年間で1度保護者会を設けている。また担任を中心に随時保護者への報告を行っている。</p>	<p>保護者会を行うが全国から学生が集まっているということもあり参加率が悪い。 また連携が必要な保護者との連携に課題がある。(連絡がとれないなど)</p>	<p>現実的にすべての保護者に保護者会に参加して頂くことは不可能なため出席できなかった保護者のフォローを強化していく。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>入学前、入学式、在籍中、卒業式時の保護者会の開催は、学校として重要な学生支援のプログラムと考えている。年何回の開催が妥当なのかは、まだ、明確ではない。</p> <p>保護者との連携、協力体制の維持向上に向けた取り組みを強化する。</p>	<p>保護者会やコンテスト参観など保護者とのコミュニケーションの機会を設けているが、連携を図るべき保護者との連携に課題がある。</p>

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------



## 5-21 卒業生・社会人

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 同窓会を組織し、活動状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 再就職、キャリアアップ等について卒後の相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 卒業後のキャリアアップのための講座等を開講しているか <input type="checkbox"/> 卒業後の研究活動に対する支援を行っているか	4	<p>卒業生を正会員とした同窓会組織がある。同窓会の目的は、会員相互の親睦、キャリアアップと母校教育の振興に寄与することである。</p> <p>また卒業後支援として、開業支援セミナーや技術講習会を行っている。</p>	仕事の都合など同窓会やキャリアアップ講座の参加率が悪い。	<p>適切な時期に、卒業生のニーズにあったキャリアアップセミナーを行っていく。</p> <p>また卒業後も同窓会以外でもSNS等で情報交換ができるように工夫する必要がある。</p>	
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 関連業界・職能団体等と再教育プログラムについて共同開発等を行っているか <input type="checkbox"/> 学会・研究会活動において、関連業界等と連携・協力を行っているか	4	美容師国家資格不合格卒業生を対象とした資格取得支援として、国家試験委員による技術講習会などを定期的で開催している。	現在は対象者が国家試験不合格者と限定されている。	全ての卒業生を対象とした産学連携教育のソフト開発を行う。	
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	<input type="checkbox"/> 社会人経験者の入学に際し、入学前の履修に関する取扱いを学則等に定め、適切に認定しているか <input type="checkbox"/> 社会人学生に配慮し、長期履修制度等を導入しているか <input type="checkbox"/> 図書室、実習室等の利用において、社会人学生に対し配慮しているか <input type="checkbox"/> 社会人学生等に対し、就職等進路相談において個別相談を実施しているか	4.3	<p>入学に関しては就学状況に応じて編入学の措置を取ることを学則に明記している。</p> <p>その他、社会人経験者に特別な配慮は行っておらず、一学生として平等な対応を行っている。</p>	社会人経験者の入学が少ないが、学園生活における社会人専用のサポートできる体制をつくっていく。	社会人経験者に対する学園生活のサポートシステムを構築する。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>卒後の就職や転職の支援は整備されている。また、教育支援プログラムは年々多くしている。</p> <p>また、同窓会組織を使ったネットワーク作りは、今後その業界に卒業生を送り込む学校として大変重要だと考える。</p> <p>同窓会を組織し、その繋がりで求人を頂き、実習を受け入れてもらうなど多くの成果が表れてきている。</p> <p>近年、業界で実際に働いている卒業生講師なども採用し、在校生にとっては何年後かの将来像となり、大きな目標にもなっている。</p> <p>同窓生を対象とした技術向上支援等の充実については、今後の検討課題となっている。</p>	<p>【生涯就職支援システム】キャリアアップを目指す卒業生や転職を希望する卒業生に対して、キャリアセンターでは卒業後も就職の支援をしている。また、開業支援プログラムや卒後技術講習会など実施をしている。</p>

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------

## 基準 6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>専門学校は実践的な学習をする教育機関である。本校は、美容の分野で学科を展開していることから、実習授業は大変重要であり、多くの授業時間をこれに当てている。</p> <p>教育環境としては、この実習に対応するハードおよびソフトの環境を最高のものにしておかななくてはならない。</p> <p>学内外の実習では、事故も起こりやすく、予測のつかない事態にも備えておかななくてはならない。本校では、こうしたリスクに対し、取るべき行動を明示して学生、教職員に徹底周知させている。</p>	<p>ハード面に関しては日常点検や定期点検により不具合のあるところは学園全体の考えで小さな不具合もすぐに対応することが原則になっており指定の修理会社は、小さな修理でも迅速に対応していただいている。</p> <p>こちらは今後も継続的に行っていく。</p> <p>ソフト面に関しては不測の事態に備えて危機管理を教職員で周知をしておく。</p>	<p>主な実習室</p> <p>第1校舎 サロン実習室(2) シャンプー実習室</p> <p>第2校舎 ショーホール ヘアメイク実習室（撮影室） シャンプー実習室 メイク実習室（4）</p>

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------

## 6-22 施設・設備等

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	<input type="checkbox"/> 施設・設備・機器類等は設置基準、関係法令に適合し、かつ、充実しているか <input type="checkbox"/> 図書室、実習室など、学生の学習支援のための施設を整備しているか <input type="checkbox"/> 図書室の図書は専門分野に応じ充実しているか <input type="checkbox"/> 学生の休憩・食事のためのスペースを確保しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備のバリアフリー化に取り組んでいるか <input type="checkbox"/> 手洗い設備など学校施設内の衛生管理を徹底しているか <input type="checkbox"/> 卒業生に施設・設備を提供しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等について適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備等の改築・改修・更新計画を定め、適切に執行しているか	5	施設設備に関しては設置基準、関係法令に準じて適合された施設になっている。 図書室・実習室に関しても同様である。 日常点検や定期点検により不具合のあるところは学園全体の考えで小さな不具合もすぐに対応することが原則になっており指定の修理会社は、小さな修理でも迅速に対応していただいている。 また卒業生に対しても設備を提供している。	特になし	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
実習授業に力を入れている本校にとって、学内実習室が実際の現場で使われている設備を揃えていることが、必要不可欠である。実践教育のための学内施設、設備は整備されていると考えている。 各教室、実習室は、各種の申請に必要な条件を全てそろえた環境として、承諾を得ている。	スペシャリストとしての技術を磨くための最新施設や機器を完備し、プロの現場と同じ器具、同じ環境で実習授業を受けることで、学生の学習意欲を喚起し、専門就職、資格合格率向上につなげる。授業以外でも、個別の課題に取り組む環境を用意している。

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------

## 6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学外実習等について、意義や教育課程上の位置づけを明確にしているか <input type="checkbox"/> 学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか <input type="checkbox"/> 学外実習について、成績評価基準を明確にしているか <input type="checkbox"/> 学外実習等について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか <input type="checkbox"/> 学外実習等の教育効果について確認しているか <input type="checkbox"/> 学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか <input type="checkbox"/> 卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか	4.3	<p>海外研修の渡航先に関しては、各学科の目指す業界に対して一番の先進国であり、そこでの活動を十分に体験出来ることを前提に選定している。</p> <p>学科コースごとに特色のある海外研修先を選び1年次の11月～12月に1週間から8日間の日程で実施している。</p> <p>また学外実習においては実習参加前に必ず意義や目的、注意事項など授業を行い、実習後も振り返りや評価を行っている。</p> <p>評価については学生便覧に準拠して行っている。</p> <p>実習受け入れ先においては必ず教職員がお礼訪問を行い連携を図っている。</p>	平成26年度はエボラ出血熱の報道で、保護者・学生より不安の声があがり参加者が減少した。	<p>渡航先、期間、研修内容を見直し、研修費用の削減と参加率向上を図る。</p> <p>提携旅行会社と協議し、緊急対策室の設置とマニュアルを作成する。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学外実習・海外研修を行うことで、学園の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」の全てと関わることになり、その教育効果は大きいものと考えている。	美容師科では2週間に及ぶ現場実習を実施している。

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------

## 6-24 防災・安全管理

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的な行動のマニュアルを整備しているか <input type="checkbox"/> 施設・建物・設備の耐震化に対応しているか <input type="checkbox"/> 防災・消防施設・設備の整備及び保守点検は法令に基づき行い、改善が必要な場合は適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 防災（消防）訓練を定期的実施し、記録を保存しているか <input type="checkbox"/> 備品の固定等転倒防止など安全管理を徹底しているか <input type="checkbox"/> 学生、教職員に防災教育・研修を行っているか	5	防災に対しては、マニュアルの整備、スタッフの役割分担、学生への情報提供など体制の整備はされている。 毎年、防災訓練として避難訓練やAEDの研修を行っている。	特になし	特になし	
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 学校安全計画を策定しているか <input type="checkbox"/> 学生の生命と学校財産を加害者から守るための防犯体制を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 授業中に発生した事故等に関する対応マニュアルを作成し、適切に運用しているか	5	学内実習においては、十分な体制がとられている。外部実習に関しては実習先との連携を密に取ることで危機管理につなげている。	特になし	特になし	

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-24-2 続き	<input type="checkbox"/> 薬品等の危険物の管理において、定期的にチェックを行うなど適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 担当教員の明確化など学外実習等の安全管理体制を整備しているか					

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>防災、火災訓練を実施し、学生、教職員、講師へ非難手順や方法を指示し実施している。</p> <p>救急時における知識の習得と意識付けは出来ている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災訓練の映像化（DVD）がされており、学生・教職員・講師全員が視聴し、防災の意識を高めている。</li> <li>※職員防災研修：平成 26 年 12 月 16 日実施</li> <li>※学生避難訓練：平成 27 年 1 月 22 日実施</li> <li>※職員消火訓練：平成 27 年 1 月 22 日実施</li> <li>・ AEDの全校舎設置</li> </ul> <p>校舎入り口付近に自動体外式除細動器（AED）計 2 台を設置している。</p> <p>月に一度自動体外式除細動器（AED）の点検をしている。</p> <p>教職員には、使用方法の講習済みである。校舎入り口にシールを貼り、設置を知らせているので近隣の方々にも緊急の際使用できるようにしている。</p>

最終更新日付	2015 年 5 月 31 日	記載責任者	岩村 勇
--------	-----------------	-------	------

## 基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は、東京都専修学校各種学校協会に加盟し、同協会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容（推薦入試による受け入れ人数等）を遵守している。また過大な広告を一切廃し、必要な場合は根拠数字を記載するなど、適正に学校募集が出来るように配慮している。さらに学内に、広告倫理委員会を設置し、広報活動の適正さをチェックしている。</p> <p>広報・告知に関しては、各種媒体、入学案内、説明会への参加やホームページを活用して学校告知を実施し、教育内容等を正しく知ってもらうように努めている。</p> <p>これら、すべての広報活動等において収集した個人情報・出願・入学生の個人情報など本校に関わるものの個人情報は、校内に個人情報保護委員会を設置し、厳重に管理し、流失および他目的使用のないように管理と研修の徹底を図っている。</p> <p>入学選考に関しては、スケジュールを募集要項に明示し、決められた日程に実施している。</p> <p>入学試験終了後は、学校長・事務局長（局次長）・教務部長・広報センター長（事務局）、全学科長により構成される、「選考会議」により可否を確定する。面接・書類内容・選考試験が実施されている場合、その結果を踏まえ、将来美容業界で働くことに適性があるか総合的に判断している。</p> <p>学納金や預かり金、教材及び講師の見直しを毎年行っており、学費及び諸経費の無駄な支出をチェックしている。</p> <p>各学科から、素案として提出されたものを、全学科責任者参加の運営会議でチェック確認を行い、その結果を最終的に学校事務責任者がチェックしている。</p> <p>保護者への授業料及び諸経費の提示についても、入学前の段階において、年間必要額を明示し、期の途中で追加徴収を基本的に行わないようにしている。</p>	<p>東京都専修学校各種学校協会に加盟し、同協会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容（推薦入試による受け入れ人数等）を今後も遵守していく。</p>	<p>学校案内 募集要項 説明会案内 学校ホームページ</p>

最終更新日付

2015年5月31日

記載責任者

岩村 勇



## 7-25 学生募集活動

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	<input type="checkbox"/> 高等学校等における進学説明会に参加し教育活動等の情報提供を行っているか <input type="checkbox"/> 高等学校等の教職員に対する入学説明会を実施しているか <input type="checkbox"/> 教員又は保護者向けの「学校案内」等を作成しているか	5	高等学校の進学ガイダンスに積極的に参加している。また在校生の出身高校に近況の報告も行っている。高校教員や保護者専用のパンフレットも存在し学校の理解を深めて頂いている。	特になし	特になし	
7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか	<input type="checkbox"/> 入学時期に照らし、適切な時期に願書の受付を開始しているか <input type="checkbox"/> 専修学校団体が行う自主規制に即した募集活動を行っているか <input type="checkbox"/> 志願者等からの入学相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 学校案内等において、特徴ある教育活動、学修成果等について正確に、分かりやすく紹介しているか <input type="checkbox"/> 広報活動・学生募集活動において、情報管理等のチェック体制を整備しているか	5	<p>本校は、東京都専修学校各種学校協会に加盟し、同協会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容（推薦入試による受け入れ人数等）を遵守している。</p> <p>我々は学生募集活動、広報活動は入学前教育という位置づけにしており、受験生の ①職業適性の発見・開発②目的意識の開発 の支援をしていく重要なプログラムあるという考えである。</p> <p>情報管理については十分に留意して取り扱っている。</p>	特になし	特になし	

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-2 続き	<input type="checkbox"/> 体験入学、オープンキャンパスなどの実施において、多くの参加機会の提供や実施内容の工夫など行っているか <input type="checkbox"/> 志望者の状況に応じて多様な試験・選考方法を取入れているか		基本高校生が休みの土曜日、日曜日にオープンキャンパスの日程を組んでいる。また平日の学校見学も行っている。選考方法は高校生対象のものだけではなく社会人入試も取り入れている。	特になし	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生募集活動は、学則を基に、その年の入学案内、募集要項の通り、適正に行われていると考えている。</p>	<p>原宿好き、美容好き、ファッション好きの高校生を対象に、その顧客の期待を上回る価値の提供に努めている。(価値:原宿コラボレーション)</p> <p>授業内容や、体験授業でその体験化を図り、HPやスマホ、Twitterなどで多くの人に見てもらえるように情報発信に注力している。</p>

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------

## 7-26 入学選考

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 入学選考基準、方法は、規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 入学選考等は、規程等に基づき適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 入学選考の公平性を確保するための合否判定体制を整備しているか	5	入学選考に関しては、基準を募集要項に明示し、決められた日程に実施している。 入学試験後は、全学科長により構成される、「選考会議」により基準に基づいて合否を確定している。	特になし	特になし	
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	<input type="checkbox"/> 学科毎の合格率・辞退率などの現況を示すデータを蓄積し、適切に管理しているか <input type="checkbox"/> 学科毎の入学者の傾向について把握し、授業方法の検討など適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 学科別応募者数・入学者数の予測数値を算出しているか <input type="checkbox"/> 財務等の計画数値と応募者数の予測値等との整合性を図っているか	5	学科ごとに資格合格率の管理、辞退率の管理をデータで蓄積している。 入学者の調査書やオープンキャンパスの対応の中で入学前から事前情報として整理をし、教育を実施している。 入学者数の予測に対して適性に財務予算を算出している。	特になし	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学選考の基準は明確に定められ適性に入学選考が行われている。 入学者数の予測を踏まえ財務を考えている。	入学選考評価シートを活用した評価の画一化 職員研修による入学者支援の策定

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------

## 7-27 学納金

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	<input type="checkbox"/> 学納金の算定内容、決定の過程を明確にしているか <input type="checkbox"/> 学納金の水準を把握しているか <input type="checkbox"/> 学納金等徴収する金額はすべて明示しているか	5	学費及び諸経費の無駄な支出をチェックしている。 その上で学費の見直しを毎年実施するようにしている。学納金はすべて明示している。	特になし	特になし	
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	<input type="checkbox"/> 文部科学省通知の趣旨に基づき、入学辞退者に対する授業料の返還の取扱いに対して、募集要項等に明示し、適切に取扱っているか	5	文部科学省通知の趣旨に基づき学生募集要綱に返還の基準を明確にしている。	特になし	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学納金については算定の内容を明確にしておりかつ毎年見直しを行い決定している。入学辞退者の授業料の扱いも文部科学省の通知趣旨に則って行っている。	入学金、授業料、諸費用を分けて学費徴収することで、教科書・教材費に関して無駄な費用請求を無くしている。 入学辞退者に関して3月31日までの申請に関しては、原則入学金以外の費用を受験生に返還している。

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------

## 基準 8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>5年を見越した長・中期の事業計画を毎年立て、収支計画も作成している。収入と支出のバランスは、理事会で毎年確認されている。</p> <p>また、学園の本部機能は、学校の財務体制をしっかりと管理し、健全な学校運営ができるような仕組みになっている。</p> <p>また、財務監査は学園本部監査スケジュールを元に、会計監査人（公認会計士）、監事、理事メンバーで実施されて、健全な財務体制を築いている。</p> <p>さらに、私立学校法に基いた財務情報公開の体制を下記の通りとしている。</p> <p><b>I. 組織体制</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法人統括責任者</li> <li>2. 学校統括責任者</li> <li>3. (学校事務担当者)</li> </ol> <p><b>II. 公開書類</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 財務諸表（財務目録・貸借対比表・収支決算書）</li> <li>2. 事業報告</li> <li>3. 監査報告書</li> </ol> <p><b>III. 閲覧場所</b></p> <p>法人本部</p> <p>この体制を平成17年4月から実施、情報の公開開示も実施している。</p>	<p>今までどおりの健全な財務体制を維持していく。</p>	<p>学園本部は</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事業計画の収支計画のチェック</li> <li>2. 消費収支計算書予算対比</li> <li>3. 資金収支内訳表</li> <li>4. 人件費支出内訳表</li> <li>5. 消費収入内訳表</li> <li>6. 固定資産明細票</li> <li>7. 借入金明細表及び基本明細票</li> </ol> <p>を、管理・運営し、学校の経営を支えている。</p> <p>財務の責任体制も明文化されており</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法人統括責任者（常務理事）</li> <li>2. 学校統括責任者（学校運営の現場責任者＝事務局長）</li> <li>3. 学校事務担当者（学校の経理責任者＝学生サービスセンター長）</li> </ol> <p>この組織体制と、公認会計士の監査のもと、適正な財務監査を実現している。</p>

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------

## 8-28 財務基盤

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	<input type="checkbox"/> 応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握しているか <input type="checkbox"/> 収入と支出はバランスがとれているか <input type="checkbox"/> 貸借対照表の翌年度繰越収入超過額がマイナスになっている場合、それを解消する計画を立てているか <input type="checkbox"/> 消費収支計算書の当年度消費収支超過額がマイナスとなっている場合、その原因を正確に把握しているか <input type="checkbox"/> 設備投資が過大になっていないか <input type="checkbox"/> 負債は返還可能の範囲で妥当な数値となっているか	5	<p>5年間の中長期的事業計画を立て、その中で収支計画を作成している。5年間の計画を立てることによって、短期的視点だけではなく中長期的な視点に立って学校運営を計画することになる。</p> <p>チェック機能を充実させており、常に情報を把握できる体制を整えている。</p> <p>設備投資については中長期的期間を見据え計画的に行われている。</p>	特になし	特になし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校法人東京滋慶学園財務諸表</li> <li>・事業計画</li> </ul>
8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	<input type="checkbox"/> 最近3年間の収支状況（消費収支・資金収支）による財務分析を行っているか <input type="checkbox"/> 最近3年間の財産目録・貸借対照表の数値による財務分析を行っているか	5	<p>5ヵ年の計画に基づいた収支計算を行っており、本部による計算書類（資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表及び各明細書）の作成及び学園本部によるチェックが行われている。</p>	特になし	特になし	学校法人東京滋慶学園財務諸表

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-28-2 続き	<input type="checkbox"/> 最近3年間の設置基準等に定める負債関係の割合推移データによる償還計画を策定しているか <input type="checkbox"/> キャッシュフローの状況を示すデータはあるか <input type="checkbox"/> 教育研究費比率、人件費比率の数值は適切な数值になっているか <input type="checkbox"/> コスト管理を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 収支の状況について自己評価しているか <input type="checkbox"/> 改善が必要な場合において、今後の財務改善計画を策定しているか					

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>短期・中期・長期の収支計画を立て財務状況の健全維持に努めている。収支・キャッシュフローの状況についても適宜確認できるようになっている。</p> <p>学外に学校会計を担う株式会社があり財務面での処理については中立公正の立場で会計処理を実施しているので不正行為も未然に防げるようになっている。</p>	学校法人東京滋慶学園財務諸表

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------

## 8-29 予算・収支計画

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	<input type="checkbox"/> 予算編成に際して、教育目標、中期計画、事業計画等と整合性を図っているか <input type="checkbox"/> 予算の編成過程及び決定過程は明確になっているか	5	収支計画(予算)は5年間作成され、そのうち次期1年間の予算については具体的に作成する(中長期計画→短期的計画)。予算の編成課程も明確である。	特になし	特になし	・事業計画
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	<input type="checkbox"/> 予算の執行計画を策定しているか <input type="checkbox"/> 予算と決算に大きな乖離を生じていないか <input type="checkbox"/> 予算超過が見込まれる場合、適切に補正措置を行っているか <input type="checkbox"/> 予算規程、経理規程を整備しているか <input type="checkbox"/> 予算執行にあたってチェック体制を整備するなど誤りのない適切な会計処理を行っているか	5	財務基盤の安定を図るために、指揮命令の系統を明確にし、計画(予算)の確実な遂行、予算実績対比により計画通りに実行されているかを確認している。 予算超過が見込まれる場合は修正予算を本部チェックの下行われている。	特になし	特になし	・事業計画 ・予算管理システム

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>厳しいチェック及び評価が行われ、いわゆる債務超過になったり、資金不足になったりする状況にはなっていない。そのため、中長期的には財務基盤は安定し、本校の学校運営も安定していると考えている。</p> <p>5ヵ年計画に基づいた収支計画は中長期的な視点で物事を考えることができるため、財務基盤の安定に資するための大規模な計画もじっくりと立てることができ、この方針は今後も続けていくと考えている。</p>	<p>本部による財務状況のチェックを毎月受けている。また監事及び公認会計士による監査、行政への報告などを行っている。</p>

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------



## 8-30 監査

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	<input type="checkbox"/> 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか <input type="checkbox"/> 監査報告書を作成し理事会等で報告しているか <input type="checkbox"/> 監事の監査に加えて、監査法人による外部監査を実施しているか <input type="checkbox"/> 監査時における改善意見について記録し、適切に対応しているか	5	学校法人東京滋慶学園は公認会計士による監査と監事による監査を実施し、その結果を監査報告書に記載し、理事会及び評議員会においてその報告をしている。	特になし	特になし	・寄付行為

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>現在のところ、監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の意見が述べられており、適正な計算書類を作成していると考ええる。</p> <p>監査を有効に実施してもらうために、証憑書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。</p>	<p>私立学校法上義務付けられている「監事による監査」を受けているが、それに加えて、補助金対象ではない当学校において「公認会計士による監査」も受けている。これによって適正な計算書類の作成とその信頼性の確保に努力している。</p>

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------

## 8-31 財務情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 財務公開規程を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 公開が義務づけられている財務帳票、事業報告書を作成しているか <input type="checkbox"/> 財務公開の実績を記録しているか <input type="checkbox"/> 公開方法についてホームページに掲載するなど積極的な公開に取り組んでいるか	5	法律改正に迅速に取り組み、外部関係では寄附行為の変更認可及び行政への届出、そして内部関係では財務情報公開規程及び情報公開マニュアルを作成し、財務情報公開体制を整備した。	特になし	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
財務情報公開の体制整備は平成17年4月1日には終了し、体制整備はできている。学園の特徴は、法改正の変化に迅速に対応できる機動力である。今後ともどんな法改正にも迅速に対応していくと考えている。	「財務情報公開規程」「情報公開マニュアル」によって、秩序整然たる順序に基づいて情報公開に対処している点が特徴として挙げることができる。

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------

## 基準 9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>法令を遵守するという考えを学園の方針に掲げ、教職員全員でその方針を理解し実行に努めている。法人理事会の元に、コンプライアンス委員会を設立し、学校運営が適正かどうか判断している。</p> <p>現状では、学校運営/学科運営が適正かどうかは、各調査においてチェックできるようにしている。</p> <p>また、組織体制強化やシステム構築にも努めている。</p> <p>(1) 組織体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①財務情報公開組織体制（あり）</li> <li>②個人情報管理組織体制（あり）</li> <li>③広告倫理管理組織体制</li> <li>④地球温暖化防止委員会</li> <li>⑤進路変更委員会</li> </ul> <p>(2) システム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①個人情報管理システム</li> <li>②建物安全管理システム</li> <li>③防災管理システム</li> <li>④物品購入棚卸システム</li> <li>⑤コンピュータ管理システム</li> </ul> <p>各委員会、組織体制、システムで、常に健全な学校・学科運営ができるように努めている。</p>	<p>学校運営の現状にあった報告届け出を行い、健全な運営体制を維持する。</p>	<p>各調査</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校基本調査（文部科学省）</li> <li>2. 国家資格対象学科 年次報告と年次指導調査（厚生労働省）</li> <li>3. 自己点検・自己評価（私立専門学校等評価研究機構）</li> <li>4. 学校法人調査（日本私立学校事業団）</li> <li>5. 専修学校各種学校調査（東京都専修学校各種学校協会）</li> </ol> <p>※調査内容：学校の現状          在籍調査          学生・生徒納付金調査          卒業者の就職状況調査          就職希望者内定状況調査          財務状況調査          財務情報公開に関する調査</p>

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------

## 9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	<input type="checkbox"/> 関係法令及び設置基準等に基づき、学校運営を行うとともに、必要な諸届等適切に行っているか <input type="checkbox"/> 学校運営に必要な規則・規程等を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> セクシュアルハラスメント等ハラスメント防止のための方針を明確化し、防止のための対応マニュアルを策定して適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 教職員、学生に対し、コンプライアンスに関する相談受付窓口を設置しているか <input type="checkbox"/> 教職員、学生に対し、法令遵守に関する研修・教育を行っているか	4	<p>関係法令及び設置基準に基づき学校運営が行われており必要な届出も適切に行っている。</p> <p>また社会規範を尊重し、高い倫理観に基づきハラスメント防止のための対応がマニュアルとして明確化されている。</p> <p>学園としてコンプライアンス遵守の方針を打ち出し、各校への啓蒙活動も行っている。</p>	法令順守についての知識維持を目的とした定期の研修がなされていない。	法令順守について断片理解に留まらないように継続的な研修を実施する。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>法令や設置基準の遵守に対する方針は文章化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは、平成17、平成18年度で完全に整備させた。</p> <p>また、教職員の啓蒙として、法令や設置基準を遵守に対する教育または研修を、実施している。</p>	<p>監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象としてコンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。</p>

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------

## 9-33 個人情報保護

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	<input type="checkbox"/> 個人情報保護に関する取扱方針・規程を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 大量の個人データを蓄積した電磁記録の取扱いに関し、規程を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 学校が開設したサイトの運用にあたって、情報漏えい等の防止策を講じているか <input type="checkbox"/> 学生・教職員に個人情報管理に関する啓発及び教育を実施しているか	4	<p>個人情報保護に関する基本理念を実践するために「個人情報保護基本規程」を構築し、社会的要請の変化にも着目し、個人情報保護管理体制の継続的改善にも取り組んでいる。</p> <p>教職員に対しては、就業規則等にも個人情報保護を明記すると共に、定期的な教育・研修を実施し受講者に試験を行い合格者には修了証を交付して周知徹底を図り、併せて各人より「個人情報保護誓約書」を提出させている。</p>	個人情報保護についての知識維持を目的とした定期の講習がなされていない。	個人情報保護について断片理解に留まらないように継続的な講習を実施する。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
平成17年4月1日に個人情報保護の体制は完了している。今後は個人情報保護の教職員への啓蒙（＝研修制度確立済み）と、その運営体制の整備に力を入れることを考えている。	外部機関の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、毎年個人情報保護管理状況についての検定を受け、ライセンスを更新し、ホームページ上に明記している。

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------

## 9-34 学校評価

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか <input type="checkbox"/> 実施に係る組織体制を整備し、毎年度定期的に全学で取組んでいるか <input type="checkbox"/> 評価結果に基づき、学校改善に取り組んでいるか	5	自己点検・自己評価の実施に際して、現状と学則の差異の有無を確認している。また、年度ごとの定期実施を行っている。結果に基づき是正改善に努めている。	特になし	特になし	
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	<input type="checkbox"/> 評価結果を報告書に取りまとめているか <input type="checkbox"/> 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	5	自己点検・自己評価結果を報告書としてまとめている。 全文公開している。	特になし	特になし	
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか <input type="checkbox"/> 実施に際して組織体制を整備し、実施しているか <input type="checkbox"/> 設置課程・学科に関連業界等から委員を適切に選任しているか <input type="checkbox"/> 評価結果に基づく学校改善に取り組んでいるか	5	実施は学則に則って実施している。 また、外部から有識者・業界関係者・職能団体関係者など招聘し委員会を組織している。委員会は定期的に開催し、評価結果に基づき改善を行っている。	特になし	特になし	
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	<input type="checkbox"/> 評価結果を報告書に取りまとめているか <input type="checkbox"/> 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	5	委員会実施の際は必ず議事録を取っている。 評価結果はホームページに掲載し、公開している。	特になし	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校評価は適切な手順・方法で実施をされており、評価結果についても学校情報の一部として公開をしている。	学校ホームページにて学校情報を公開している。 ・学校評価(平成 25 年度)

最終更新日付	2015 年 5 月 31 日	記載責任者	岩村 勇
--------	-----------------	-------	------

## 9-35 教育情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	<input type="checkbox"/> 学校の概要、教育内容、教職員等教育情報を積極的に公開しているか <input type="checkbox"/> 学生、保護者、関連業界等広く社会に公開するための方法で公開しているか	4	学校ホームページを利用して、学校情報として公開している。	情報公開の喧伝活動が偏執的であるため、情報公開事実が社会に幅広く伝わっていない。	学校案内などに学校情報へのアクセス情報を載せていく。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>自己点検・自己評価の結果を学校情報としてホームページ上に公開している。情報公開という点では公開手段は現社会情勢に合った方法をとっており、実施内容は問題ないと考えている。</p> <p>しかしながら情報公開に関しての喧伝活動を積極的に行っていないため、今後、学校情報の周知に関する手段については検討の余地がある。</p>	<p>学校ホームページに下記情報を掲示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校情報：トップページよりリンク</li> <li>・職業実践専門課程：トップページよりリンク「別紙様式4」への導線を敷いている。</li> </ul>

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------



## 基準 10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学園のミッションとして「職業人教育を通じて社会に貢献する」を掲げている。そのことを元に地域の方々に向けたネイルサロン、エステサロンの実施、また、高齢者サークルへの美容施術の出張イベントなど、美容を通じた社会貢献を独自に行っている。</p> <p>また、ニートやフリーター、通信制高校出身者など学習習慣のない入学生に向けても、サポート体制を整えるなど広く学べる環境を提供している。</p> <p>ボランティアなどの他者支援活動は「原宿」中心に地域に密着した貢献活動を行っている。</p>	<p>地域社会貢献活動は継続実施する。</p> <p>また、能動的他者支援活動を活性化する。</p> <p>そのために地域婦人会と共同して、高齢者への美容施術ボランティアを試験的に実施し、効果測定後、恒常的活動として導入する。</p>	<p>原宿のサロンのスタイリストとの共同事業としては、チャリティーサロンを実施している。（カットはスタイリストに、シャンプーブローは学生が実施）</p> <p>そこで得た売上金は東日本大震災で被災された現地の理美容師の復興支援という形で、赤十字社に寄付している。</p> <p>地域町内会、婦人会の共同事業として、ネイルサロンを実施している。爪のケア、ハンドマッサージ、カラーリングをボランティアで実施している。</p> <p>原宿を中心に活動をしている高校生サークルへの施設貸出を実施。</p> <p>毎月、教職員が神宮前商店会と共同し地域清掃を実施。</p> <p>中学校・高校からの修学旅行生への体験講座の実施。</p>

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------

## 10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	<input type="checkbox"/> 産・学・行政・地域等との連携に関する方針・規程等を整備しているか <input type="checkbox"/> 企業や行政と連携した教育プログラムの開発、共同研究の実績はあるか <input type="checkbox"/> 国の機関からの委託研究及び雇用促進事業について積極的に受託しているか <input type="checkbox"/> 学校施設・設備等を地域・関連業界等・卒業生等に開放しているか <input type="checkbox"/> 高等学校等が行うキャリア教育等の授業実施に教員等を派遣するなど積極的に協力・支援しているか <input type="checkbox"/> 学校の実習施設等を活用し高等学校の職業教育等の授業実施に協力・支援しているか <input type="checkbox"/> 地域の受講者等を対象とした「生涯学習講座」を開講しているか <input type="checkbox"/> 環境問題など重要な社会問題の解決に貢献するための活動を行っているか <input type="checkbox"/> 学生・教職員に対し、重要な社会問題に対する問題意識の醸成のための教育、研修に取り組んでいるか	4	<p>地元のサロンの方々とのネットワークは固いが、地域団体とのつながりはまだ弱い。</p> <p>学生サロンの活用で、美容の魅力を中高生～高齢者まで伝えている。</p> <p>不定期ではあるが、地元企業の行うファッションショーなどに会場を貸す場合がある。</p> <p>地域清掃を定期的に行っている。</p> <p>地球温暖化対策を、学園全体として取り組んでいる。</p> <p>東日本大震災における節電や、地球温暖化対策を、学園全体として取り組んでいる。</p> <p>冷暖房使用時は、設定温度を調整、廊下等の照明消すなどの節電を実施、温暖化対策委員会を学園として設置し中心に活動している。</p>	<p>不定期開催のため恒常的に社会貢献・地域貢献できるよう努める。</p>	<p>地域の方々と連携を強め地域貢献をしていく。</p> <p>また高等学校が行うキャリア教育にも積極的に連携していく。</p>	

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
10-36-2 国際交流 に取組んでいる か	<input type="checkbox"/> 海外の教育機関との国際交流の推進に関する方針を定めているか <input type="checkbox"/> 海外の教育機関と教職員の人事交流・共同研究等を行っているか <input type="checkbox"/> 海外の教育機関と留学生の受入れ、派遣、研修の実施など交流を行っているか <input type="checkbox"/> 留学生の受入れのため、学修成果、教育目標を明確化し、体系的な教育課程の編成に取組んでいるか <input type="checkbox"/> 海外教育機関との人事交流、研修の実施など、国際水準の教育力の確保に向け取組んでいるか <input type="checkbox"/> 留学生の受入れを促進するために学校が行う教育課程、教育内容・方法等について国内外に積極的に情報発信を行っているか	3.3	<p>国際センターを中心に留学生の受け入れを行っているが、本校ではまだ少ない。</p> <p>海外の大学などからの視察は積極的に受け入れており、必要の応じて美容体験などができるようにしている。</p>	国際交流に対してのシステムがほぼない状態である。	内容を精査し国際交流の取り組みが出来るよう努める。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校としての社会貢献・地域貢献はその活動規模が小さいため目立ってはいないが、教育につなげて実施はしている。</p> <p>また、学園をあげての取り組みとして、地球温暖化防止のための日常行動の注意喚起がある。</p>	<p>地球温暖化対策の中で、学生への啓蒙活動としてポスターを掲示している。現在は、教職員に対してはクールビズとウォームビズ、電気使用について節電を徹底し、発電におけるCO<sub>2</sub>排出の抑制に努めている。</p>

最終更新日付	2015年5月31日	記載責任者	岩村 勇
--------	------------	-------	------

## 10-37 ボランティア活動

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	<input type="checkbox"/> ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に奨励しているか <input type="checkbox"/> 活動の窓口の設置など、組織的な支援体制を整備しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を把握しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を評価しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動結果を学内で共有しているか	5	<p>学内でのチャリティーサロンの実施や盲導犬協会などの募金箱設置など取り組みはしている。</p> <p>地域イベント、お祭り、原宿 Kawaii など、総勢 200 名以上の学生がボランティアとして参加。</p>	ボランティア活動の次につながるような活動をしていく。	ボランティア活動のルール整備と積極的に参加をしていく。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
地域密着イベントに教育的観点から学生と共にボランティアとして参加しており、今後も積極的に取り組んでいく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国盲導犬協会の募金箱を校舎毎に設置</li> <li>・赤い羽根共同募金寄付</li> <li>・歳末助け合い運動寄付</li> <li>・平成 27 年度より医療支援団体（Make a Wish）への寄付を予定</li> </ul>

最終更新日付	2015 年 5 月 31 日	記載責任者	岩村 勇
--------	-----------------	-------	------